



基幹研究

【王朝文学の流布と継承】

プロジェクト代表者：田淵句美子

プロジェクト参加者：伊藤鉄也、江戸英雄、落合博志、加藤昌嘉、久保木秀夫、斎藤真麻理、浅田徹（お茶の水女子大学准教授）、安達敬子（京都府立大学准教授）、入口綾（元 統計数理研究所非常勤職員）、上野洋三（大阪女子大学名誉教授）、勝俣隆（長崎大学教授）、神作研一（金城学院大学教授）、日下幸男（龍谷大学教授）、小林一彦（京都産業大学教授）、坂巻理恵子（大正大学非常勤講師）、佐藤信子（元当館研究機関研究員）、妹尾好信（広島大学准教授）、田野慎二（広島国際大学准教授）、鶴崎裕雄（帝塚山学院大学名誉教授）、西本寮子（県立広島大学教授）、原豊二（米子工業高等専門学校講師）、福田景道（島根大学教授）、藤田洋治（東京成徳短期大学教授）、古瀬雅義（安田女子大学准教授）、松原一義（鳴門教育大学教授）、安原真琴（立教大学文学部助教）、山本登朗（関西大学教授）、横井孝（実践女子大学教授）

（1）概要

平安期を中心に成立した王朝文学が、中世、そして近世期において、どのように流布し継承されたのか、現在我々が手にしている王朝文学は、どのような享受と変容、展開の上に成立したのか、その諸相を明らかにする。

具体的には、『古今和歌集』『伊勢物語』『源氏物語』『栄花物語』『新古今和歌集』その他の王朝文学の、流布と継承、近世的展開などについて、個別作品論の枠内にのみ留まらない写本・版本というメディアによる展開と流布の諸相の把握、中世・近世期における王朝文学の定位と展開の位置づけ、そこからの古態への遡及あるいは逸文・逸書の復元の可能性などをめぐる検証を行い、できるだけ縦断的に、また具体的かつ総合的に検証することを目的とする。

（2）活動記録

① 共同研究会の実施

平成 19 年度は共同研究会を 2 回実施した。うち 1 回は、地方大会（広島大会）として行った。

第 1 回

- ・日程 6 月 8 日
- ・場所 国文学研究資料館
- ・プログラム
 - 1 入口 綾氏 発表題目「桃園文庫旧蔵伊勢物語版本について」
 - 2 落合博志氏 発表題目「王朝文学の版本とその享受者に関する問題二、三一寛永三年版『保元物語・平治物語』を例として一」
 - 3 松原一義氏 発表題目「『十六夜日記』伝本の再検討」
 - 4 共同討議

第 2 回

・日程 12月14日

・場所 広島大学文学部

・プログラム

(午前) 広島大学蔵古典籍の共同調査 後掲

(午後) 研究発表会

1 田野慎二氏 発表題目「版本挿絵の制作方法」

2 原 豊二氏 発表題目「山頂湖面抄諸本再考―主に書誌的問題と写本というメディアのあり方について―」

3 田渕句美子 発表題目「『阿仏のふみ』から『紫式部日記』へ―消息的部分に関する試論―」

4 共同討議

② 当館マイクロ収集資料の調査

当館マイクロ収集資料の中から、本研究のテーマに即し、かつメンバー各人の専門に関わる紙焼写真を作成し、それぞれ研究・検討を行った。

③ 原本調査

各種資料のより詳細な書誌情報を必要とするメンバーが、それぞれ原本調査を各地で、もしくは国文学研究資料館で実施した。

④ 共同調査

広島大学で開催した研究会に合わせて、参加した研究会のメンバーで、広島大学蔵古典籍（王朝文学関係）の共同調査を実施した。

【19世紀における出版と流通】

プロジェクト代表者：谷川恵一

プロジェクト参加者：大高洋司、山下則子、青田寿美、木戸雄一、青木稔弥（神戸松蔭女子学院大学教授）、勝又基（明星大学講師）、加藤禎行（山口県立大学講師）、菊池庸介（元学習院大学非常勤講師）、木田隆文（龍谷大学特別任用講師）、ロバート・キャンベル（東京大学准教授）、佐々木亨（徳島文理大学教授）、島田大助（豊橋創造大学准教授）、杉浦晋（埼玉大学准教授）、鈴木俊幸（中央大学教授）、関肇（京都光華女子大学准教授）、津田真弓（日本女子大学非常勤講師）、十重田裕一（早稲田大学教授）、長尾直茂（上智大学准教授）、中丸宣明（山梨大学准教授）、樋口恵（私立開智中学校・高等学校教諭）、山本和明（相愛大学教授）、山本陽史（明海大学教授）、湯浅佳子（東京学芸大学准教授）、渡辺麻里子（弘前大学准教授）

(1) 概要

前年度に引き続き、対象とする図書館・資料館の所蔵資料の調査・研究を行い、それに基づいて研究会を開催するとともに、研究成果の一部を公開し、研究を着実に前進させた。また、研究の進展に応じ、研究をより具体的に進展させるため、研究の方向性の見直しを行っている。

(2) 活動記録

① 研究会

平成19年度は共同研究会を二回行った。

第3回研究会

・日程 6月8日 10:30～12:00

・場所 国文学研究資料館中会議室

・発表者と題目

「十九世紀の出版と流通」研究計画の一部修正について

谷川恵一：「十九世紀の出版と流通」調査報告

明治期：九月研究会に向けての打合せ

江戸期：今後の研究計画に関する打合せ

分担者：自他楽会資料翻字打合せ

第4回研究会

・日程：12月14日 13:30-17:30

・場所：国文学研究資料館中会議室

・発表者と題目

木戸雄一：皇学舎の書物とその流れ—江差町郷土資料館蔵関川家文書から—

青田寿美：酒田市立光丘文庫調査の現状と課題

谷川恵一：明治20年代弘前の書籍流通と自他楽会—『東奥日報』を手がかりに—

以上の研究会とは別に、自他楽会資料の翻字に関する最終の打合せを、8月27日に資料館にて行った。

② 資料調査

調査収集事業部で行った書籍の調査・収集とは別に、新聞縦覧所や読書会などに関する資料の調査を、以下のように行った。

5月14日-18日：江差町郷土資料館調査（木戸）

3月5日-8日：酒田光丘図書館（青田・入口・山本）

③ 研究成果

『調査研究報告』第二十六号に「自他楽会資料（一）」を掲載した。弘前市立弘前図書館に所蔵される自他楽会資料の内、明治二十二年から同三十四年までのものを、研究メンバーが分担して翻刻したものである。基本情報が共有されることにより、今後の研究の進展が期待される。

また、6月7日の調査収集シンポジウムにおいて、木戸雄一が「明治初期の江差町における書物の流通—江差町郷土資料館蔵関川家文書を中心に—」と題し、研究の報告を行った。

【「源氏物語」再生のための原典資料研究】

プロジェクト代表者：伊井春樹

プロジェクト参加者：伊藤鉄也、入口敦志、江戸英雄、岡崎久司（当館複合領域研究系客員教授・早稲田大学国際日本学研究所客員教授）、加藤昌嘉、久保木秀夫、中村康夫、山崎誠、藤本孝一（古代学協会研究員）、別府節子（出光美術館学芸員）

（1）概要

本研究は、新館開館を記念して、源氏物語一千年紀祭展示「源氏物語特別展示」及び源氏物語特別講演会・シンポジウムを実施開催する上で必要な、調査と研究を行うことを目的としたものである。

展示に関わる、文学・歴史・美術の各分野の原本を調査研究し、その成果を解題などに反映させ、図録・出版物を通して広く普及させていくこととなる。

（2）活動記録

① 共同研究会の実施

第1回研究会

- ・日 程 4月17日(火)
- ・場 所 国文学研究資料館中会議室
- ・共同討議 源氏物語特別展概要説明

『源氏物語団扇画帖』調査報告(第1図～第10図)

以降、毎月1～2回、合計11回にわたり、共同討議による解題作成検討会を実施した。

② 資料調査

- 1 源氏物語うちわ画帖
- 2 光源氏系図
- 3 源氏物語歌合絵巻

③ 展示・シンポジウム

平成20年10月より、源氏物語一千年紀祭展示「源氏物語特別展示」及び源氏物語特別講演会・シンポジウムを実施開催する予定である。

④ 研究成果

当初の目的を達成し、現在は展示図録作成のために依頼した解題原稿の編集を行った。

【家伝書としての近世兵書資料の基礎的研究】

プロジェクト代表者：鈴木 淳

プロジェクト参加者：井田太郎、岡崎久司(当館複合領域研究系客員教授・早稲田大学国際日本学研究所客員教授)

(1) 概 要

最終年度である今年度は、それぞれの典籍や断片類の最終的な目録化を完了した。整理も一段落した。これらの作業はデジタル化と平行して進められ、現時点で書誌データは全てパソコンでみることができる状態になっている。アルシーヴに含まれていた絵図類を中心と刷る膨大な断片類に関しては、ツレを探し出し、原型をある程度復元するという研究的知見を伴う作業が不可欠であった。書誌データを作成しながら、資料の同一性を再確認できるようにするため、簡便な写真撮影を行いながら、それらを辛うじて遂行した。また、関係各所との意見調整なども併せて行った。



研究プロジェクト

1. 文学資源研究系

【総括】

文学資源研究系では、原本資料の書誌的調査・整理を踏まえ、【日本古典籍特定コレクションの目録化の研究】【和刻本（五山版・近世初期刊本）の研究】【近世後期小説の様式的把握のための基礎研究】【学芸書としての中世類題和歌集の研究—『夫木和歌抄』を中心に—】という4つのプロジェクト研究が外部研究者を加えた共同研究として進行している。

これらはいずれも平成16年度に発足し、本年度は4年目にあたるが、各プロジェクトとも、メンバーの入れ替わり等の小規模な変動はあったものの、内容上の大きな変更は認められない。本年度は、4年目を迎えて各プロジェクトが具体的な成果を結実しつつあり、【近世後期小説の様式的把握のための基礎研究】は八戸市立図書館と共編で『読み本【よみほん】事典 江戸の伝奇小説』（笠間書院、2008年2月）を、また、【学芸書としての中世類題和歌集の研究—『夫木和歌抄』を中心に—】は、夫木和歌抄研究会編として『夫木和歌抄 編纂と享受』（風間書房、2008年3月）を刊行してその成果を公にした。【和刻本（五山版・近世初期刊本）の研究】も和刻本漢籍データベースの作成にかかり、2008年1月よりその成果をHPで公開している。

【日本古典籍特定コレクションの目録化の研究】

プロジェクト代表者：鈴木淳

プロジェクト参加者：井田太郎、神楽岡幼子（当館客員准教授・愛媛大学准教授）、エリス・ティニオス（外国人研究員・リーズ大学名誉講師）、檜山裕子（当館機関研究員）、浅野秀剛（千葉市美術館学芸課長）、岩切友里子（国際浮世絵学会会員）、岩佐伸一（大阪歴史博物館学芸員）、小林ふみ子（法政大学講師）、佐藤悟（実践女子大学教授）、ロバート・キャンベル（東京大学大学院教授）

（1）概要

今年度は、研究会を3回開催し、うち1回については、国際浮世絵学会と共催した。毎回、文学研究者と美術研究者が、それぞれ一名ずつ発表し、お互い意見を交換し、有意義な研究会を実施することができた。また、コアメンバーによる打ち合わせを、客員の神楽岡幼子の上京に合わせて行い、研究会、論文集、絵本シンポジウムや展示の計画について、打ち合わせた。さらに、2008年6月28日に開催する国際絵本シンポジウムに向けて、実行委員会を組織し、準備を進めた。

（2）活動記録

〔研究会〕

第一回 絵本研究会

○期日 2007年7月14日（土） 15時より

場所 国文学研究資料館 2F 中会議室

研究発表の内容

檜山裕子「国文学研究資料館所蔵黒本『〔周防内侍〕』について」

日野原健司「絵本における略画的画風の変遷について」

※国際浮世絵学会と共同開催

○第二回 絵本研究会

期日 2007年10月12日（金） 15時より

場所 国文学研究資料館 2F 中会議室

研究発表の内容

伊藤紫織「賞春芳（帖）について」

神楽岡幼子「長谷川光信の絵本について」

○第三回 絵本研究会

※打ち合わせ会の記録※ 作成・檜山

日時 12月7日（金） 午後3時より

場所 江戸東京博物館内 学習室1

研究発表の内容

岩佐伸一「大坂四条派の絵師・上田公長の画譜について」

鈴木淳「天明期江戸名所絵本のイメージとテキスト」

【研究成果】

檜山裕子（機関研究員）が、平成19年度東京学芸大学国語国文学会大会にて「黒本『初戯場平家連中』—繋がる歌人・周防内侍と源平の世界」を発表した。

【その他】

【国際シンポジウム実行委員会】

○第一回

日時 2007年12月7日（金） 午後2時より

場所 江戸東京博物館内 学習室1

参加者 浅野秀剛・鈴木淳・ロバートキャンベル・佐藤悟・檜山裕子

○第二回（予定）

日時 2008年3月19日（水） 午後2時より

場所 国文学研究資料館 副館長室

【和刻本（五山版・近世初期刊本）の研究】

プロジェクト代表者：山崎誠

プロジェクト参加者：陳捷、入口敦志

プロジェクト補助者：田中有紀（当館リサーチアシスタント）

（1）概要

日本で刊行された中国の書物「和刻本」のうち、五山版と近世初期刊本を対象とする書誌的な研究。各種目録類からデータ集積を図り、当該本の書誌情報や書影などの索引の作成、和刻本を通して見た日中書籍交流史の研究を課題とする。

（2）活動記録

平成19年に、年次計画に沿って、次の業務を推進してきた。

①五山版・近世初期刊本の書誌情報の整備：平成18年に引き続き、五山版、近世初期刊本の書誌

データと、それに関する研究論文、書影索引などの情報を織り込んだ基本台帳の作成。

②和刻本漢籍データベースの作成：長沢規矩也氏『和刻本漢籍分類目録』と『和刻本漢籍分類目録補正』の書誌データを入力。それと同時に、資料館所蔵和刻本資料を基礎として和刻本漢籍データベースを作成し、平成20年1月にホームページで公開した。

③研究文献目録の作成：和刻本に関する研究文献の調査・収集を行ってきた。国文学関係の論著と学術雑誌についてはほぼ完成し、報告書に収める予定。

④和刻本漢籍研究会の開催。

※2007年6月13日 午後15時～17:30

「中国印刷史に関する諸問題」

報告者：辛徳勇教授（北京大学歴史学部）

場所：国文学研究資料館大会議室 A 15:00～

参加者：入口、横内、河合、大内、顧永新（早稲田）、山崎、陳、相田、張（大学院）、金時徳（大学院）、

討論のテーマ：

A 印刷出版史と仏教との関係

B 金属活字の問題について

※2007年12月13日（木） 午後14:00～17:30

「中国東南部の出版文化と日本の出版文化」国際シンポジウム

（科研費特定領域寧波研究「出版文化班」との共催）

場所：国文学研究資料館中会議室

プログラム：

司 会：陳捷（国文学研究資料館准教授）

報 告 1：『帝鑑図説』の日本での受容」（入口敦志、国文学研究資料館助教）

コメント：橋本秀美（東京大学東洋文化研究所准教授）

報 告 2：「17世紀東アジアを駆けめぐった科学参考書—大魁四書集注—」（高津孝、鹿児島大学教授）

コメント：青木隆（日本大学文理学部准教授）

報 告 3：「談談新発現的宋刻本『南岳稿』」（趙前、中国国家図書館善本特藏部副研究員）

コメント：王嵐（北京大学中文系准教授）

報 告 4：「宋版「崇寧藏」「毗盧藏」残巻考」（沈乃文、北京大学図書館古籍善本部主任）

コメント：梶浦 晋（京都大学人文科学研究所助教）

総 括：山崎誠（国文学研究資料館教授）

参 加 者：計27名

⑤成果報告書の作成

【近世後期小説の様式的把握のための基礎研究】

プロジェクト代表者：大高洋司

プロジェクト参加者：飯倉洋一（大阪大学大学院文学研究科教授）、勝又基（明星大学日本文化学部専任講師）、菊池庸介（元学習院大学文学部非常勤講師）、木越俊介（山口県立大学国際文化学部准教授）、小二田誠二（静岡大学人文学部准教授）、近藤瑞木（首都大学東京都市教養学部助教）、鈴木圭一（神奈川県安全防災局

主査)、高橋圭一(大阪大谷大学文学部教授)、田中則雄(島根大学法文学部教授)、津田眞弓(日本女子大学文学部非常勤講師)、濱田啓介(京都大学名誉教授、花園大学文学部客員教授)、檜山裕子(青山学院高等部非常勤講師)、藤沢 毅(尾道大学芸術文化学部教授)、二又淳(明治大学法学部非常勤講師)、山本 卓(関西大学文学部教授)、湯浅佳子(東京学芸大学教育学部准教授)

プロジェクト補助者: 金時徳(当館リサーチアシスタント)

(1) 概 要

江戸時代後期の小説類のうち、読本、人情本、実録を対象とし、それらを小説様式のレベルで把握するための基礎的作業として、各機関所蔵資料の書誌的整理を行う。新たな分類方法の検討に基づく読本の図録解題、文政期人情本解題、実録解題原案の作成などを課題とする。

(2) 活動記録

① 共同研究会

a. 第1回共同研究会 7月28、29日

場所: 国文学研究資料館2階中会議室

・7月28日

1) 大高洋司「活動報告」

2) 発表・木越俊介「『奇談情之二筋道』について一文政期における読本改題本をめぐって」

3) 発表・津田眞弓「中本作者としての鼻山人の文政期」

・7月29日

1) 人情本の展観

2) 発表・濱田啓介「文体論試論」

参加者: 大高洋司、飯倉洋一、大屋多詠子、勝又 基、菊池庸介、木越俊介、近藤瑞木、鈴木圭一、田中則雄、津田眞弓、濱田啓介、檜山裕子、藤沢 毅、二又淳、山本 卓、湯浅佳子、金 時徳、一戸 渉(総研大院生)、紅林健志(同)、山名順子(お茶の水女子大院生)、渡辺さやか(同)、坂口香恵(立教大院生)、井上泰至(防衛大学校准教授)

b. 第2回共同研究会 12月22、23日

場所: 国文学研究資料館2階中会議室

・12月22日

1) 大高洋司「活動報告」

2) 発表・近藤瑞木「滑稽怪談の展開—浮世草子から草双紙へ」

・12月23日

1) 発表・井上泰至(ゲストスピーカー)「天保期春水人情本と女性読者の規範—古典啓蒙書・女訓書・現世利益信仰との関係—」

2) 発表・湯浅佳子「『宿直草』と『諸国百物語—近世説話の展開—』

参加者: 大高洋司、飯倉洋一、井上泰至、大屋多詠子、菊池庸介、木越俊介、小二田誠二、近藤瑞木、鈴木圭一、高橋圭一、津田眞弓、濱田啓介、檜山裕子、二又 淳、山本 卓、湯浅佳子、金 時徳、紅林健志、陳可冉(総研大研究生)、山名順子、渡辺さやか、天野聡一(神戸大学院生)

- ② プロジェクト研究の成果物として、国文学研究資料館・八戸市立図書館共編『読本【よみほん】事典 江戸の伝奇小説』を刊行した（笠間書院、2月）。
- ③ 「人情本事典（仮題）」及び「八戸市立図書館所蔵実録解題（仮題）」の準備作業を進めた。

【学芸書としての中世類題集の研究—『夫木和歌抄』を中心に—】

プロジェクト代表者：田淵句美子

プロジェクト参加者：小川剛生、齋藤真麻理、久保木秀夫、石澤一志（鶴見大学非常勤講師）、伊藤善隆（湘北短期大学専任講師）、大谷俊太（奈良女子大学教授）、鈴木健一（学習院大学教授）、鈴木元（熊本県立大学准教授）、福田安典（愛媛大学准教授）、三戸信恵（サントリー美術館学芸員）、三村晃功（京都光華女子大学教授）、渡邊裕美子（早稲田大学非常勤講師）

プロジェクト補助者：大内瑞恵（当館リサーチアシスタント）

（1）概 要

本年度は、共同研究会を二日間にわたって集中的に実施し、討議を深化させた。さらにこれまでの研究成果の集約を行うとともに、メンバーがそれぞれ研究会で発表・討議を経た成果に基づき、各テーマによって論文を執筆した。またこれまでの原本調査・研究の成果をとりまとめ、影印・翻刻・解説を作成した。これらの成果をまず平成 19 年 9 月に研究報告書の形でとりまとめ、配布して全員の校閲を経た上で、さらに増補を加え、『夫木和歌抄 編纂と享受』を出版した。

（2）活動記録

〔研究会〕

第 1 回研究会

- ・日程 8 月 28 日（火）
- ・場所 国文学研究資料館中会議室
- ・プログラム
 - 1 石澤一志氏 「夫木抄と為家」
 - 2 渡邊裕美子氏 「『夫木和歌抄』所載歌合判詞について」
 - 3 共同討議

第 2 回研究会

- ・日程 8 月 29 日（水）
- ・場所 国文学研究資料館中会議室
- ・プログラム
 - 1 田淵句美子氏 「『夫木和歌抄』と日記・紀行」
 - 2 鈴木元氏 「『夫木和歌抄』の享受と連歌」
 - 3 共同討議

〔研究成果〕

2008 年 3 月に、風間書房から『夫木和歌抄 編纂と享受』を出版した（616 ページ）。その内容はすべて本プロジェクトの成果によるものである。内容は以下の通りである。

序 論

本論・研究篇

- 第 1 章 編纂と特質 『夫木和歌抄』の成立とその性格 石澤一志／『夫木和歌抄』所載歌合判詞について 渡邊裕美子／勝命作『懷中抄』 久保木秀夫／『夫木和歌抄』における名所

歌 田淵句美子

第2章 学芸と変容 古歌の集積と再編 小川剛生／異類の歌合と『夫木和歌抄』 齋藤真麻理
／『夫木和歌抄』の享受と連歌 鈴木元

第3章 享受と展開 三手文庫蔵『百草和歌抄』の成立 三村晃功／三手文庫蔵『百木和歌抄』
の成立 三村晃功 類題和歌集における「蛙」題の展開 鈴木健一／名所付合語集『武
蔵野』について 伊藤善隆／近世期における『夫木和歌抄』 福田安典

付 章 類題和歌集概観 三村晃功

本論・資料篇 夫木和歌抄伝本書目・夫木和歌抄享受史年表・伝後小松院筆夫木和歌抄・後崇光院
筆拾葉抄・叡山文庫本夫木和歌抄・鳥類八百首

2. 文学形成研究系

【総括】

文学形成研究系では、平成18年度「本文共有化の研究」プロジェクトを終え、平成19年度は以下に記す3つの研究プロジェクトを推進、「古典形成の基盤としての中世資料の研究」プロジェクトは、共同研究として体制を整え再出発した。共同研究のための資料の収集と整備、共同研究会に向けて個々で行う予備研究、共同研究会における研究発表、そして研究成果の刊行と、いずれも活発に行われた。

「平安文学における場面生成研究」プロジェクトでは本年度も研究成果報告として『物語の生成と受容③』（全263頁）を発行。この形での報告書を3部、着実に積み上げることになった。「古典形成の基盤としての中世資料の研究」プロジェクトは5月と12月に台湾で共同研究会を開催、その成果を『アジア遊学』（勉誠出版）108号に掲載した（4～158頁）。「近世文学の表現技法〈見立て・やつし〉の総合研究」プロジェクトは『図説〈見立〉と〈やつし〉—日本文化の表現技法—』（全252頁）を八木書店より出版し、朝日・読売・毎日ほか新聞でも取り上げられて大きな反響をよんだ。

加藤昌嘉助教授が法政大学に転出、相田満助教がアーカイブズ研究系に配置変え換え、岩城賢太郎機関研究員が宇部工業高等専門学校に転出した。

【近世文芸の表現技法「見立て・やつし」の総合研究】

プロジェクト代表者：山下則子

プロジェクト参加者：武井協三、井田太郎、加藤定彦（立教大学教授）、佐藤恵里（高知女子大学教授）、原道生（明治大学教授）、延広真治（帝京大学教授）、安原眞琴（立教大学非常勤講師）

プロジェクト補助者：光延真哉（当館リサーチアシスタント）

（1）概要

① 研究目的

日本文学作品形成の基盤となる表現方法を明らかにするため、近世文芸に特に多く見られる表現技法「見立て・やつし」について研究する。「見立て・やつし」の研究を、文学・絵画・芸能の各ジャンルにおける作品に即して、各分野における実証的な研究方法に基づいてその註釈・解釈を行い、各分野の「見立て・やつし」を検討・考察する。また、これらを通史的に考察することにより、各時代における変化なども考察することを目的とする。

② 平成19年度の進捗状況

第4年次は、前年度末に配布したプロジェクト報告書（『近世文芸の表現技法〈見立て・やつし〉の総合研究プロジェクト報告書 第3号』）に対しての学界関係者からの評価について検討した。また、海外の日本文学研究者からも反響があった。

研究成果報告書『図説「見立」と「やつし」』を八木書店から平成20年3月に出版した。内容は16～18年度の研究成果として纏められた、プロジェクト報告書第1～3号所載の論文、平成18年度に開催した展示（「みたて」と「やつし」—浮世絵・歌舞伎・文芸—）とシンポジウム（表現としての「やつし」と「みたて」）の成果等も取り入れたものである。なお、本出版物は、本年度創設された研究成果刊行促進制度による助成を受けた。

（2）活動記録

① 館内共同研究会

・平成 19 年 4 月 3 日
参加者：井田太郎、武井協三、山下則子

・平成 19 年 9 月 11 日
参加者：武井協三、山下則子、光延真哉

② 共同研究準備会

・平成 19 年 4 月 24 日
参加者：加藤定彦、武井協三、山下則子、光延真哉

・平成 19 年 9 月 13 日
参加者：武井協三、安原真琴、山下則子

・平成 19 年 10 月 9 日
参加者：武井協三、原道生、山下則子、光延真哉

③ 出版準備連絡会議

・平成 19 年 6 月 28 日
参加者：滝口富夫（八木書店）、武井協三、山下則子

・平成 19 年 11 月 20 日
参加者：滝口富夫（八木書店）、武井協三、光延真哉、山下則子

・平成 19 年 12 月 11 日
参加者：金子俊之、滝口富夫（八木書店）、武井協三、山下則子

・平成 20 年 1 月 15 日
参加者：滝口富夫（八木書店）、新藤茂、光延真哉

・平成 20 年 1 月 25 日
参加者：滝口富夫（八木書店）、山下則子

・平成 20 年 2 月 12 日
参加者：滝口富夫（八木書店）、武井協三、山下則子

④ 研究成果報告書等

『図説「見立」と「やつし」』

体 裁：B5 版 2 段組 252 頁

刊 行：平成 20 年 3 月 20 日（初版発行）、20 年 6 月 30 日（初版第 2 刷）

出版社：八木書店

値 段：本体 9,800 円＋税

目 次

序（館長 伊井春樹）

はじめに（プロジェクト代表 山下則子）

第 1 章 図版資料 解説（全員）

第 2 章 「見立」「やつし」への切り口

「見立」と「やつし」の定義（新藤茂）

やつしと俳諧（加藤定彦）

やつしと歌舞伎（佐藤恵里）

「見立」と歌舞伎（武井協三）

やつしと庭園（加藤定彦）

なぞなぞと見立（安原真琴）

見立と戯作（延広真治）

「見立」と「やつし」〈試論〉（高橋則子）

あとがき（プロジェクト代表 山下則子）

初出一覧

図版目録

索引

Summary

【古典形成の基盤としての中世資料の研究】

プロジェクト代表者：武井協三

プロジェクト参加者：相田満、落合博志、齋藤真麻理、渡辺信和（当館客員教授・同朋大学仏教文化研究所研究室長）、濱中修（国士舘大学教授）、三田明弘（日本女子大学准教授）、横田隆志（神戸大学講師）

プロジェクト補助者：伊藤潤（当館文学形成研究系リサーチアシスタント）

（1）概要

① 研究目的

これまでの通念にとらわれない視点から、「古典」の意味を新たに問い直すことを、古典籍の実物資料（1次資料）の分析を通して試みることを目的とする。

具体的には、古典とは何か。いかにして古典となったのかということ、を、「キャラクター」と「書籍」の切り口から、その総体を把握するという手法により追究するものである。

② 平成19年度の進捗状況

平成19年度からは外部共同研究者を迎えて共同研究方式が採られることとなり、プロジェクトは共同研究・原本調査・データベース構築の3項目を柱に進めた。

また、これらの研究成果は、研究報告書や雑誌の特集として発表され、データベースは、平成20年度から当館のホームページから公開される。

（2）活動記録

〔共同研究〕

（財）交流協会による日本と台湾の研究者による共同研究支援2007年度助成事業の後援を受け、「人物・キャラクターの視点による前近代文学史構築の研究」をテーマとする国際シンポジウム・共同研究会を行った。開催された研究会は以下の通り。

A. 5月13日 国際シンポジウム（於：台湾大学〔台北〕） 発表15本・合同討議〔座長：相田〕
参加40名（日本9・台湾31）

研究発表者……相田満・岡部明日香・齋藤正志・佐藤敬子・中村祥子・林欣慧・陳明姿・三田明弘・黄翠娥・武井協三・武久康高・中尾真樹・横田隆志・伊藤潤・渡辺信和

B. 7月28～30日（於：同朋大学） 発表8本・参加17名

研究発表者……相田満・横田隆志・陳明姿・原正一郎・三田明弘・齋藤正志・佐藤敬子・濱中修・蔵中しのぶ

C. 12月8日（於：台湾大学〔台北〕） 発表5本 参加20名

研究発表者……相田満・蔵中しのぶ・三田明弘・牧野和夫・渡辺信和

なお、これらの研究成果は、交流協会の助成により『国際共同研究「人物・キャラクターによ

る前近代文学史の構築」国際シンポジウム・共同研究報告集』（予稿・配布資料集）を作成したほか、それらをもとにして、『アジア遊学 108 古典キャラクターの可能性』（勉誠出版、2008. 3）と題する特集号して出版された。

〔原本調査〕

8 月に善通寺および随心院所蔵の資料を引き続き調査した。

〔データベース〕

平成 19 年度にデータベース改訂版として作成された『歴史人物画像データベース・桜版』を資源共有化事業のデータベースとして Web 公開を行った。また、関連するデータベースについても古典学統合データベースとして、データを新たに xml 化して分散型データベースシステムから公開するとともに、資料館からもデータベース公開を行った。

- ① 歴史人物画像データベース……103 冊分の典拠より取材された 3100 名延べ 4700 件分の人物画像データベースを新たなシステムで公開するための準備を進めた。
- ② 伝記解題データベース……伝記資料 102 冊分の解題をデータベースとして新たに公開するための準備を行った。
- ③ 芳賀人名辞典・地下家伝データベース……約 50,000 件のデータを新たに公開するための準備を進めた。

なお、他に『古事類苑』データベースの構築も着実に進行している。また、これらの検索システムを支えるために作成した暦日データベースは、人間文化研究機構における資源共有化を支える基盤データベースにも採用された。

〔研究成果報告書等〕

- ◎『国際共同研究「人物・キャラクターによる前近代文学史の構築」国際シンポジウム・共同研究報告集』（予稿・配布資料集）目次

※国際シンポジウム（於：台湾大学）※2007 年 5 月 13 日開催

プログラム作成・査読：古典キャラクター研究国際シンポジウム委員会

A-01：人物・キャラクターの視点による前近代文学史構築の研究～研究テーマ解題～

日本・国文学研究資料館 相田満……1～6 頁

A-02：キャラクターとしての形代～平安時代の物語文学を中心に～

日本・中央学院大学（非） 岡部明日香……7～14 頁

A-03：〈異性装の女〉

～『とりかへばや』と『奉教人の死』あるいは「サファイア」と「藤岡ハルヒ」～

臺灣・中國文化大學 齋藤正志……15～22 頁

A-04：「古代ロマン」の名のもとに描かれた藤原不比等像～漫画・小説から～

日本・横濱市立大学看護短期大学（非 [元]） 佐藤敬子……23～31 頁

A-05：旅する清少納言～『松島日記』にみる清少納言像～

臺灣・輔仁大学 中村祥子……32～39 頁

A-06：日本文学におけるいじめられ役～近代の大衆文学を中心に～

臺灣・臺灣大学（學生） 林欣慧……40～46 頁

A-07：日本文学における龍～中古と中世の文学を中心にして～

臺灣・臺灣大学 陳明姿……47～59 頁

A-08：日本における孔子のイメージ

- 日本・日本女子大学 三田明弘……60～66 頁
- A-09：諸葛孔明について
臺灣・輔仁大学 黄翠娥……67～73 頁
- A-10：歌舞伎のキャラクター「役柄」
日本・国文学研究資料館 武井協三……74～77 頁
- A-11：臺灣の桃太郎～葉宏甲「新編桃太郎」「小英雄漫遊記」～
日本・比治山大学 武久康高……78～83 頁
- A-12：浦島太郎と玉手箱
臺灣・交流協会 中尾真樹……84～88 頁
- A-13：観音
日本・神戸大学 横田隆志……89～97 頁
- A-14：太子・河勝・日本武尊～聖徳太子像の往還～
日本・総合研究大学院大学（院生） 伊藤潤……98～103 頁
- A-15：聖徳太子認識の変遷とその表象としての造像
日本・同朋大学佛教文化研究所 渡辺信和……104～112 頁
- A-16：※※合同研究討議※※
座長：相田満……113～125 頁
- ※国際共同研究会（於：同朋大学）※2007 年 7 月 28～29 日開催
- B-01：玉藻前と王権～その人物類型を求めて～
日本・国士舘大学 濱中修……126～134 頁
- B-02：日本文学における龍〔補足〕～中古と中世の文学を中心にして～
臺灣・臺灣大学 陳明姿……135～139 頁
- B-03：辺境のジャータカ～『延暦僧録』天皇菩薩伝・皇后菩薩伝～
日本・大東文化大学 蔵中しのぶ……140～145 頁
- B-04：和漢古典学のキャラクタオントロジ
日本・国文学研究資料館 相田満……146～153 頁
- B-05：ゴジラのキャラクターと香山滋の文学世界
日本・日本女子大学 三田明弘……162（154）～165（157） 頁
- B-06：女性が男装して戦うこと
臺灣・中国文化大学 斎藤正志……166（157）～173（160） 頁
- B-07：「古代ロマン」の名のもとに描かれた藤原不比等像 2～漫画・小説から～
日本・横濱市立大学看護短期大学（非〔元〕） 佐藤敬子……174（161）～183（170） 頁
- B-08：キャラクター論と人物論～平安時代の物語文学におけるキャラクター形成～
日本・中央学院大学（非） 岡部明日香……184（171）～191（178） 頁
- B-09：海の観音～媽祖～
日本・神戸大学 横田隆志……192（179）～199（186） 頁
- ※付録・発表プレゼンテーション※
- F-01：和漢古典学のキャラクタオントロジ
日本・国文学研究資料館 相田満……（187）～（192） 頁
- F-02：観音

日本・神戸大学 横田隆志……193～195 頁

F-03：太子・河勝・日本武尊～聖徳太子像の往還～

日本・総合研究大学院大学（院生） 伊藤潤……196～197 頁

F-04：孔子のキャラクター学

日本・日本女子大学 三田明弘……198～199 頁

F-05：海の観音～媽祖～

日本・神戸大学 横田隆志……200～

奥書

◎『アジア遊学 108 古典キャラクターの可能性』（勉誠出版、2008. 3）目次

相 田 満	序言・「古典キャラクター」の可能性
岡部明日香	人物論とキャラクター論
武井 協三	歌舞伎のキャラクター「役柄」
渡辺 信和	聖徳太子認識の変遷とその表象としての造像
佐藤 敬子	「古代ロマン」の名のもとに描かれた藤原不比等
黄 翠娥	諸葛孔明・そのキャラクター像の変遷
蔵中しのぶ	光源氏と仏教に縁なき衆生・末摘花一仏像によそえられる人物一
横田 隆志	キャラクター論から見るアジアの観音伝承
岡部明日香	平安時代物語キャラクターとしての形代
三田 明弘	『論語』のキャラクター学
中村 祥子	旅する清少納言
斎藤 正志	戦う〈異性装〉
武久 康高	台湾の桃太郎
林 欣 慧	一大学生の眼から見た台湾における日本大衆文化の受容と変容
三田 明弘	ゴジラのキャラクターと香山滋の文学世界

【平安文学における場面生成研究】

プロジェクト代表者：中村康夫

プロジェクト参加者：伊藤鉄也、加藤昌嘉、江戸英雄、岩城賢太郎（当館機関研究員）、金光桂子（京都大学准教授）、高橋由記（明星大学非常勤講師）、中川照将（皇學館大学講師）、萩野敦子（琉球大学准教授）、松岡智之（静岡大学准教授）、横井孝（実践女子大学教授）、横溝博（早稲田大学非常勤講師）

プロジェクト補助者：森田直美（当館リサーチアシスタント）

（1）概 要

平安～鎌倉時代に作られた物語作品を主な対象とし、物語を構成する「場面」に着目しながら、平安物語の生成状況と受容状況を研究する。具体的には、『うつほ物語』『源氏物語』『狭衣物語』『夜の寝覚』『住吉物語』『栄花物語』等について、「成立」「流布」「改作」「異文」「注釈」「校訂」「翻訳」「絵画化」といった視点で考察を進め、各作品論にとどまらぬ総合的究明を行い、平安文学研究の新たな視座を拓くことをめざす。

（2）活動記録

平成 19 年度は、以下の 2 回の共同研究会を開催し、基調報告・共同討議、および、館蔵本の調査を行った。

① 6月29日（金）

【『源氏物語』成立論再考】

加藤昌嘉「研究の流れ」

松岡智之「和辻哲郎『ホメーロス批判』の射程」

加藤昌嘉「紫上系と玉鬘系」

② 8月25日（金）

【『風葉和歌集』再考】

中川照将「先行研究のまとめ」

小川陽子「中世王朝物語研究と『風葉和歌集』」

共同討議

金光桂子「『風葉和歌集』雑部の構成について」

横溝 博「『風葉和歌集』の〈内〉なる物語史—物語イメージの集成として」

上記の2回の研究会では、合わせて、『光源氏一部連歌寄合』等の館蔵資料の検討も行った。

また、上記研究会に関連して、穂久邇文庫以外に蔵される『風葉和歌集』断簡の調査を、プロジェクトメンバーの助言をもとに岩城賢太郎が整理するとともに、研究用語の再検討を、加藤昌嘉を中心に分担して実施した。

以上の活動に基づく研究成果は、『平成19年度研究成果報告 物語の生成と受容③』（平成20年1月31日発行）として刊行した。

3. 複合領域研究系

【総括】

複合領域研究系においては、学際的な研究領域の開拓を目指して文学作品群の多角的な研究を行うプロジェクトと、文化資源情報の電子化及び共有化に関する研究を行うプロジェクトを、それぞれ共同研究として実施している。前者は、調査収集事業部における文献資料調査・収集事業と連動した研究（6年計画の4年目）であり、後者は、情報資料サービス事業部における文化資源情報の発信の高度化と連動した研究（1年間の準備研究）である。両プロジェクトとも、当初計画に従い研究はおおむね順調に実施された。

【開化期戯作の社会史研究】

プロジェクト代表者：谷川恵一

プロジェクト参加者：山下則子、青田寿美、北村啓子、木戸雄一、高木元（当館客員教授・千葉大学教授）、青木稔弥（神戸松蔭女子学院大学教授）、奥野久美子（別府大学講師）、加藤禎行（山口県立大学講師）、甘露純規（中央大学講師）、佐々木亨（徳島文理大学教授）、佐藤悟（実践女子大学教授）、佐藤至子（日本大学准教授）、須田千里（京都大学准教授）、高橋昌彦（福岡大学准教授）、土屋礼子（大阪市立大学教授）、中丸宣明（山梨大学准教授）、福井辰彦（京都大学非常勤講師）、山田俊治（横浜国立大学教授）、山本和明（相愛大学教授）、山本良（埼玉大学准教授）、ロバート・キャンベル（東京大学准教授）

プロジェクト補助者：大橋崇行（当館リサーチアシスタント）、佐山美香（当館リサーチアシスタント）

（1）概要

前年度に引き続き、収集した資料を中心とした魯文著作の研究を分担して進め、それに基づいて研究会を開催し、目標のひとつである魯文著作解題作成に向けた研究を前進させた。

（2）活動記録

〔研究会〕

今年度開催した研究会は以下の通り。

第十九回例会

- ・日程：5月11日
- ・場所：国文学研究資料館中会議室
- ・発表者と題目
松原 真『童謡甲斐の胆嚢』について

佐々木亨「明治四～六年頃における魯文の交流圏の一端」

第二十回例会

- ・日程：6月22日
- ・場所：国文学研究資料館中会議室
- ・発表者と題目
高木 元「雑書に見る魯文の序文」

佐々木亨「資料紹介 魯文校『石川五右衛門一代記』」

谷川恵一「『安愚楽鍋』について（承前）」

青田寿美「凡例（逐次刊行物用）」・「〈解題〉起廃病院医事雑誌」

第七回大会

・日程：7月14日-15日

・場所：総研大講義室

・発表者と題目

佐藤 至子「『四家怪談』について」

青田 寿美「魯文×膝栗毛物の商品力―「江之嶋詣栗毛後馬」をめぐる―」

青木 稔弥「魯文の双六など」

佐々木 亨「『鳥追阿松海上新話』の成立について」

福井 辰彦「『甲越川中島軍記』について」

加藤 禎行「『百足の歩』について」

小林 実「『義経蝦夷軍記』について」

奥野久美子「『石川五右衛門一代記』について」

高木 元「魯文の賣文業―畫譜・繪手本・端唄本・錦繪・引札―（承前）」

山本 和明「『月の輪』刊行に関する一事情」

木戸 雄一「『男伊達花川戸』のことども」

谷川 恵一「『日蓮上人御一代記』のこと」

第二十一回例会

・日程：9月7日

・場所：国文学研究資料館 中会議室

・発表者と題目

高木 元「魯文の自筆稿本」（『新編鎌倉見聞誌』）

谷川恵一・宮脇真理子「『福和内笑門新篇』について」

第二十二回例会

・日程：11月2日

・場所：国文学研究資料館 中会議室

・発表者と題目

谷川恵一「『絵新聞日本地』について」

第八回大会

・日程：1月12日、13日

・場所：総研大講義室

・発表者と題目

木戸雄一「『楠一代記』の書誌学的考察」

神林尚子「『花裘狐草紙』に関する一考察―書誌的事項を中心に―」

佐藤至子「『雨夜鐘四谷雑談』の魯文嗣作部分について―京伝『安積沼』の利用を中心に―」

高木 元「『星月夜吾妻源氏』の手法について」

佐々木亨「『胡瓜遣』成立における問題点」

小林 実「どいつごでどどいつ―『洋語読入倭度々逸』―」

青田寿美「聞書き・仮名垣魯文 曾孫池田脩氏述」

谷川恵一「『浪花男団七黒兵衛』のことども」

中丸宣明「仮名かき新報解題ならびに「東京絵入新聞」掲載の魯文の文章について」
山本和明「魯文『成田山御利生記』諸本考」

【次世代型古典文学研究学習システムに関する研究】

プロジェクト代表者：古瀬 蔵

プロジェクト参加者：相田満、野本忠司、原正一郎（京都大学教授）

（1）概 要

本研究は 20 年度から本格化を目指す電子資料利用環境構築の研究に向けた予備研究という位置づけで、現状分析や予備検討を中心に実施した。また、研究資源共有化プロジェクトの統合検索システム開発への参画などを通じて、電子資料データベースの整備を実施した。

（2）活動記録

〔資料調査〕

- ・文学研究への情報技術の貢献を検証する実フィールドとして、源氏物語の標準テキストとされる大島本を写本本文の調査・予備検討を行った。

〔研究成果〕

- ・国文学研究資料館が提供する研究資源共有化データベース群について、分析・整備を行い、人間文化研究機構の研究資源共有化プロジェクトにおける統合検索システムの 20 年 4 月一般公開に貢献した。
- ・文学研究への貢献が期待できる情報処理技術について、自動要約処理や評価表現抽出など自然言語処理手法の検討を行った。

〔その他〕

- ・不統一な管理体制にある国文学資料館の電子資料データベースの情報把握に努め、安定的な運用・サービスのための一元管理に向けた 20 年度以降の方向性を固めた。一元管理化の実現事例として国際関係データベースの公開を実施した。

4. アーカイブズ研究系

【総括】

古文書から電子記録まで多様に存在するアーカイブズ資源に関する総合的研究を行い、わが国のアーカイブズの特質の解明及びその保存・活用のための技法・理論を確立することを目的として、さらにアーカイブズ情報を社会化するためのシステム構築の研究を推進することに重点を置き、次の3つの研究プロジェクトを展開している。いずれも平成16年度～21年度の6年計画の4年目であり、鋭意研究成果のとりまとめにあっている。

①経営と文化に関するアーカイブズ研究、②東アジアを中心としたアーカイブズ資源研究、③アーカイブズ情報の資源化とネットワーク研究である。①は史料館以来の伝統的な史料学研究を引き継いだもので、②は史料群情報の電子化と国内的国際的情報共有システムの研究であり、③は東アジアの比較史料学研究とアーカイブズ資源の共有化に関する研究であり、アーカイブズ学研究を基盤に三つのプロジェクトが相互に相補う関係に設定されている。

共同研究の進展という立場から、大学・自治体等と連携して研究を進め、歴史学、情報学、美術史学などを専攻する大学教員等の調査・研究活動への参加を得ている。また、研究機関研究員・リサーチアシスタント等若手研究者を調査活動や研究会に参加させ、報告させるなど、その育成を積極的に図っている。

なお、『国文学研究資料館紀要アーカイブズ研究篇』第3号を刊行し、研究成果を発表した。また、『アーカイブズニュースレター』第6、7号を発行し、研究プロジェクトの計画・研究成果を速報として公表した。

①の研究成果として、論文集『藩政アーカイブズの研究』（岩田書院、国文学研究資料館の出版助成）を刊行した。

史料集として『史料叢書10 藩の文書管理』（名著出版）を刊行した。

【東アジアを中心としたアーカイブズ資源研究】

プロジェクト代表者：安藤正人

プロジェクト参加者：渡辺浩一、加藤聖文、エルキン・ジャン（当館客員准教授・アンカラ大学準助教授）、岡崎敦（当館客員准教授・九州大学准教授）、浅井紀（東海大学教授）、臼井佐知子（東京外国語大学教授）、金慶南（韓国国家記録院学芸研究士）蔵持重裕（立教大学教授）、栗原純（東京女子大学教授）、須川英徳（横浜国立大学教授）、高橋一樹（国立歴史民俗博物館准教授）、辻弘範（北海学園大学専任講師）、永島広紀（佐賀大学准教授）、林佳世子（東京外国語大学教授）、林雄介（明星大学准教授）、松田利彦（国際日本文化研究センター准教授）、三浦徹（お茶の水女子大学教授）

プロジェクト補助者：谷ヶ城秀吉（当館リサーチアシスタント）

（1）概要

多国間比較研究班は、6月にパリにおいて国際研究会を開催し、中近世アーカイブズについて主として日仏の二国間比較を行った。12月には東京で国際シンポジウムを開催し、韓国・中国・トルコ・フランス・イギリス・日本の近世アーカイブズについての多国間比較研究を行った。

植民地関係史料班は、11月に韓国で、6月にハワイで、1月にワシントンでそれぞれ史料調査を行

った。また、国内では関連史料群の調査および聞き取り調査を行った。

(2) 活動記録

[研究会]

- ・日 程 6月18日
- ・場 所 パリ（国立文書館歴史資料センター）
- ・発表者 高橋一樹（国立歴史民俗博物館）、大友一雄（国文学研究資料館）、オリヴィエ・ギョジヤナン/オリヴィエ・ボンセ（国立古文書学校）、ヴァネッサ・ハーディング（ロンドン大学）、渡辺浩一（国文学研究資料館）、西向公介（広島県立文書館）、ジャック・ボタン（フランス国立研究センター、近現代史研究所）、ロベール・デシモン（社会科学高等研究院）
- ・題目（内容） アーカイヴズ、権力、社会（中世・近世の西欧とアジア）文書管理に働くさまざまな力、セッション名「国家の諸機関（中央および地方のアーカイヴズ）」「都市」「商人」

[資料調査]

今年度は、11月25日から29日にかけて韓国での調査を行った。全羅北道における近現代地方文書や民主化運動に関連するアーカイブズ収集と公開など韓国におけるアーカイブズ研究と専門機関の現状を調査すると同時に、国史編纂委員会において次年度に計画しているシンポジウムの打ち合わせを行った。この他、6月25日から7月1日にかけて、ハワイ大学の図書館および韓国研究センターで資料調査を行い、中枢院文書・南洋庁文書などの撮影を行った。また、1月27日から2月3日にかけて、継続中の米国立公文書館および米国議会図書館での調査を行い、Captured Korean Documentsの概要目録作成などを継続して行った。

国内では、昨年度寄贈を受けた守屋栄夫文書・松田令輔文書の燻蒸処理を行い、また、サハリン残留韓国人帰還運動関係資料の寄贈を受け、仮目録を作成した。その他、在朝日本人のオーラルヒストリーを福岡市内（6月）で継続して行った。

[展示・シンポジウム]

- ・日 程 12月14, 15日
- ・場 所 立教大学
- ・発表者 オゼル・エルゲンチ（ビルケント大学）、ヒュルヤ・タシュ（アンカラ大学）、臼井佐知子（東京外国語大学）、オリヴィエ・ボンセ（フランス国立古文書学校）、高橋実（国文研）、ヴァネッサ・ハーディング（ロンドン大学）、大友一雄（国文学研究資料館）、金炫栄（韓国国史編纂委員会）、王振忠（復旦大学）
- ・題目（内容） 近世アーカイブズの多国間比較
セッション1 「近世アーカイブズをめぐる統治と社会」
セッション2 「実践される近世アーカイブズ」

[研究成果]

『研究成果報告書 近世アーカイブズの多国間比較』2008年3月、A4判、254頁。

【経営と文化に関するアーカイブズ研究】

プロジェクト代表者：高橋 実

プロジェクト参加者：青木 睦、山田哲好、山本英二（当館客員准教授・信州大学准教授）、岡部

信二（茨城県立歴史館主任研究員）、門前博之（明治大学教授）神谷智（愛知大学准教授）、菅豊（東京大学准教授）、田島達也（京都市立芸術大学講師）、伊達仁美（京都造形美術大学准教授）、多和田雅保（飯田市地域史研究所研究員）、浪川健治（筑波大学教授）、山崎圭（中央大学講師）、横山憲長（長野県立短期大学教授）、脇野博（秋田工業高等専門学校教授）

プロジェクト補助者：高橋伸拓（当館リサーチアシスタント）

（1）概 要

国文学研究資料館の原典資料に関する実証的研究を基礎とした日本文化の多様性を総合的にとらえ直す研究計画に関連し、館蔵史料のうち近世・近代の地主・名望家及び実業の経営と文化に関する史料を中核とし、現地に保存されている関連史料を対象に含めてアーカイブズ学的研究を進めている。それにより日本文化の多様性を総合的にとらえ直し、豊かでかつ新しい地域史像・実業史像を立体的に明示するとともにアーカイブズ学研究の深化を目的としている。

（2）活動記録

本研究プロジェクトは、館蔵史料のうち近世・近代の地主・名望家及び実業家の経営と文化に関する史料を中核とし、現地に保存されている関連史料を対象に含めてアーカイブズ学的研究を進めている。それにより地域文化の多様性を総合的にとらえ直し、豊かな地域史像を示すとともに、アーカイブズ学研究の進展を図ることを目的としている。本研究は（1）～（3）の三つの柱を立てて進めてきた。

（1）信濃国高井郡東江部村山田家文書を中心とする調査・研究

館蔵の山田家文書については『信濃国高井郡東江部村山田庄左衛門家文書目録』（全4冊）刊行は終了した。中野市の山田家文書については『中野市文化財調査報告書 第5集 東江部村山田庄左衛門家文書目録Ⅲ』として中野市教育委員会から最終の第3冊目を刊行した。山田家文書を対象とした論文集をとりまとめるために研究会（9月23日、於：国文学研究資料館中会議室）を開催した。近く論文集『近世・近代の地主経営と地域社会研究』として刊行する予定である。なお関連研究の成果として論文集『藩政アーカイブズの研究』（岩田書院）を刊行した。

（2）常陸国行方郡玉造村大場家文書を中心とする調査・研究

館蔵史料の常陸国行方郡牛堀村須田家と、同じく水戸藩南領の大山守を代々勤めた大場家の文書を対象に総合的調査を実施している。水戸藩の中間支配機構としての大山守の歴史的位置・意味などについての分析を進めている。さらにこれまで未調査だった大場家に伝来する絵画、書跡などについて美術史研究者らと共同調査を終え、水戸藩南領域の文化的特質の解明を行った。大場家文書に関する研究会を開催した（11月10日、国文学研究資料館中会議室）。研究報告は以下の通りである。水戸藩大山守制の行政とその社会的意義・籠橋俊光（東北歴史資料館学芸員）／近世前期の野論一行方郡玉造村と周辺村々との入会地紛争・栗原 亮（茨城地方史研究会）／大場家の書画から伺える家風・守屋正彦（筑波大学大学院教授）／須田家と須田本家史料について・門前博之（明治大学文学部教授）／霞ヶ浦沿岸の自治体史刊行状況と近世史研究・岡部真二（茨城県立歴史館主任研究員）

（3）日本実業史博物館資料の調査・研究及び交流・公開

渋沢敬三が史料館へ寄贈した「日本実業史博物館」準備室旧蔵資料（略称：実博資料）に関する研究を引き続き実施している。本研究では、渋沢敬三の博物館設立の基本指針と計画遂行に関わる文書である「一つの提案」を分析の基軸に据え、準備室日誌、収集資料登録台帳や領収書など資料群形成過程の解明に欠かせない準備室アーカイブズに対するアーカイブズ学的手法による検討を主眼として研究を進めている。さらに人間文化研究機構連携研究として『日本実業史博物館』資料の高度活用（研究代表：青木睦）と題した研究を行った。その成果にもとづいて当館春季特別展「幻の博物館の

“紙”―「日本実業史博物館」旧蔵コレクション展」(開期 2007 年 5 月 28 日～6 月 15 日)を開催した。さらに中間研究報告として公開シンポジウム「幻の博物館の“紙”」(6 月 9 日、国文学研究資料館大会議室)を開催した。研究報告は以下の通りである。幻日本実業史博物館紹介-実業史の中の紙・青木睦(国文学研究資料館准教授)／和紙にみる昭和の技術・増田勝彦(昭和女子大学教授)／海外のジャパニーズ-WASHIー・稲葉政満(東京芸術大学大学院教授)／アチック・ミュージアムと紙・近藤雅樹(国立民族学博物館教授)／科学の目で見る紙資料・金山正子(元興寺文化財研究所室長)

また、映像による研究報告 DVD 版「復活！日本実業史博物館 調査報告 2006 年」を作成し、公開した。さらに、連携研究の中間報告会を開催した(2 月 10 日・11 日、国立歴史民俗博物館)。研究報告は以下の通りである。連携研究から連携展示へー幻の博物館の紙展示報告・青木 睦／日本実業史博物館資料と歴博水木コレクションの状態調査報告・金山正子／印刷博物館「美人のつくりかたー石版から始まる広告ポスター展」報告・田島奈都子(姫路市立博物館)学芸員／交通博物館における交通関係資料について・佐藤美知男(財団法人交通文化振興財団交通博物館学芸員)

【アーカイブズ情報の資源化とネットワークの研究】

プロジェクト代表者：大友一雄

プロジェクト参加者：五島敏芳、前川佳遠理、坂口貴弘(当館機関研究員)、青山英幸(駿河台大学非常勤講師)、安倍尚紀(東京福祉大学専任講師)、戸森麻衣子(元アーカイブズ研究系研究機関研究員)、原正一郎(京都大学教授)、藤吉圭二(高野山大学准教授)、丸島和洋(慶応義塾大学非常勤講師)、宮崎克則(九州大学教授)、村越一哲(駿河台大学教授)、森本祥子(国立国語研究所研究員)、安澤秀一(当館名誉教授)、安永尚志(当館名誉教授)

プロジェクト補助者：榎本博(当館リサーチアシスタント)

(1) 概 要

アーカイブズ情報の資源化と、その情報提供方法に関わり、総合研究大学院大学葉山高等研究センター、駿河台大学「駿河台大学におけるミュージアム＝アーカイブズの形成と教育・公開利用を促進するための基礎的研究」とシンポジウムなどを共催し、また、別に 2 回の研究会を開催した。前年度に引き続き外国関連文献の翻訳作業も進めた。

(2) 活動記録

[研究会]

研究会(2007 年度第 1 回)

- ・日 程 10 月 27 日
- ・場 所 国文学研究資料館中会議室
- ・発表者 藤吉圭二「ネットワーク時代のアーカイブズーアカウントビリティ確保の拠点としてー」
- ・発表者 森本祥子「国語研究所における EAD 導入の試み」

研究会(2007 年度第 2 回)

- ・日 程 3 月 6 日
- ・場 所 国立国語研究所
- ・報 告 前川佳遠理「ISAAR-CPF(第二版)団体・人・家のための国際標準 記録史料の典拠レコード 第 2 版改訂に関してー翻訳と実例より」

安倍尚紀「社会学によるアーカイブズ論のための基礎的考察」

[展示・シンポジウム]

日 程 5月14日

場 所 国文学研究資料館大会議室 B

開催形態 総合研究大学院大学葉山高等研究センター「大学共同利用機関の成立に関する歴史資料の蒐集とわが国における巨大科学の成立史に関する研究」プロジェクトと共催

シンポジウムタイトル 「研究資料・研究機関のアーカイブズ共有の前提：史料保存の経験・蓄積から資料情報共有へ」

報 告 高橋実（国文学研究資料館）

「旧・史料館の事務・研究関係文書記録の整理と保存・公開」

森本祥子（独立行政法人国立国語研究所情報資料部門資料整備グループ研究員）

「国立国語研究所の研究資料の保存の概要」

原正一郎（京都大学地域研究統合情報センター教授・原 正一郎）

「紹介・展望：地域研究資料の保存と情報共有」

コメント 国文学研究資料館管理部学術情報課・核融合科学研究所アーカイブズ室・高エネルギー加速器研究機構史料室・総研大葉山高等研究センター・分子科学研究所史料編纂室

[公開ワークショップ]

日 程 2008年3月12日

場 所 駿河台大学法科大学院法科大学院校舎（千代田区駿河台）

開催形態 駿河台大学「駿河台大学におけるミュージアム＝アーカイブズの形成と教育・公開利用を促進するための基礎的研究」との共催

タイトル 「EAD/XML データ編集の選択肢：応用ソフトウェアとオンライン総合目録」

報 告 五島敏芳「EAD によるアーカイブズのオンライン資料目録の利益と可能性」

丸島和洋「EAD/XML データの web 上での基本的表現・配信」

五島敏芳「オンラインツール『史料情報共有化データベース』編集機能」

（株）インフォコム「『史料情報共有化データベース』編集機能におけるデータの一括登録」

村越一哲「Excel を用いた EAD/XML 化ツール」

[研究成果]

①に関わり収蔵史料信濃国松代真田家文書などを中心に3件の文書群の組織構造に関する研究を進め、その成果をアーカイブズ研究系の研究会で発表し、その研究成果に基づき史料目録第85・86・87集を刊行した。

②に関わり EAD などに関する外国文献の翻訳を前年度に引き続き進めた。

③に関わり日本全国の諸機関の協力を得て集約してきた全国の収蔵公開機関情報、収蔵公開機関が収蔵する史料群情報について分析を進め、その成果の一端を日本歴史学協会・日本学術会議史学委員会共催「史料保存利用問題シンポジウム」（6月23日、於・学習院大学）において、大友一雄が「日本における史料保存機関の現状」と題し報告した。関連して機関研究員坂口貴弘「アーカイブズ情報の共有化はどのようにすれば進展するのか：国際調査の結果から」（『国文学研究資料館紀要アーカイブズ研究篇』No4）を公表した。また、研究成果に基づき集約情報を公開する「史料情報共有化データベース」のデータを更新した。

5. 公募共同研究

【江戸時代中期文人大名に見る学芸と思想に関する総合的研究

—佐賀鹿島藩第六代藩主鍋島直郷の事跡を中心に—

研究代表者：井上敏幸（佐賀大学教授）

研究参加者：鈴木淳、小川剛生、山田哲好、入口敦志、大庭卓也（福岡教育大学非常勤講師）、川平敏文（熊本県立大学准教授）、久保田啓一（広島大学教授）、小宮木代良（東京大学准教授）、進藤康子（九州情報大学非常勤講師）、野口朋隆（小城市立歴史資料館学芸員）、宮崎修多（成城大学教授）

（1）概 要

佐賀鹿島藩第6代藩主鍋島直郷（1718～1770）の遺稿や旧蔵書が、祐徳稲荷神社博物館の中川文庫に多く残されていることは周知の通りである。その中に直郷の学芸の師であった人々の遺稿集や旧蔵書が豊富にある。和歌における鴛河申也の遺稿群、漢詩文における川口子深の遺稿群、さらに神道の伝書類が多いことが特に注目される。江戸時代中期、享保末から宝暦期（1735～1763）にかけての江戸における学芸及び思想に関する研究は、極めて手薄である。今回の共同研究は、そうした中期の江戸における学芸と思想の実態を解明すべく鍋島直郷の遺稿群及び藩政史料、特に『鹿島藩日記』を中心とした藩政についての研究を中心に実施するものである。

（2）活動記録

〔研究会〕

第1回研究会と打ち合わせ

- ・日 程 6月8日
 - ・場 所 国文学研究資料館共同研究室
 - ・発表者 参加者全員
 - ・題目（内容）
 1. 昨年度の実施報告と今年度の実施予定について
 2. これまでの研究成果報告・共同討議
 3. 9月29日開催予定の祐徳での講演会の発表者について
- 上記講演会への後援依頼等について
- ・4. 報告書の掲載論文について
 - 5. 本年度の調査日程と調査方針について
 - 6. その他

第2回研究会と打ち合わせ

- ・日 程 8月30日から9月1日
- ・場 所 祐徳稲荷神社中川文庫（佐賀県鹿島市）
- ・発表者 参加者全員
- ・題目（内容）
 - 1 3日間にわたる調査収集事業部の通常の調査との合同調査
 - 2 全日、調査終了後、参加者による調査と研究の成果報告・共同討議
 - 3 次回研究会・調査の日程と、講演会についての打ち合わせ

第3回研究会と打ち合わせ

- ・日 程 9月28日から30日
- ・場 所 祐徳稲荷神社中川文庫（佐賀県鹿島市）
- ・発表者 参加者全員
- ・題目（内容）
 - 1 現地での講演会と調査に合わせて、全日調査終了後調査研究の成果報告・共同討議
 - 2 成果報告書についての打ち合わせ

〔資料調査〕

調査収集事業部の通常の調査との現地合同調査

- ・日程 8月30日から9月1日
- ・場所 祐徳稲荷神社中川文庫（佐賀県鹿島市）

共同研究会での現地調査

- ・日程 9月28日から30日
- ・場所 祐徳稲荷神社中川文庫（佐賀県鹿島市）

〔展示・シンポジウム〕

講演会「鹿島鍋島藩の政治と文化Ⅱ」（後援 佐賀大学・佐賀新聞社）

- ・日程 9月29日
- ・場所 祐徳稲荷神社参集殿（佐賀県鹿島市）

プログラム

- 1 鍋島 朝倫 祐徳稲荷神社宮司 挨拶
- 2 久保田啓一 広島大学教授 講演題目「歌人としての鍋島直郷」
- 3 川平 敏文 熊本県立大学准教授 講演題目「鍋島直郷と神道学―井田道祐を中心に」
- 4 小宮木代良 東京大学准教授 講演題目「鍋島氏の系譜言説と鹿島鍋島家」
- 5 鈴木 淳 国文学研究資料館副館長 挨拶

〔研究成果〕

10月、評価用の暫定報告書作成

3月、研究成果報告書作成

【川瀬一馬氏旧蔵古典籍写真資料の調査と研究】

研究代表者：岡崎久司（早稲田大学国際日本学研究所客員教授）

研究分担者：小川剛生、落合博志、井田太郎、久保木秀夫、岡雅彦（当館名誉教授）、小秋元段（法政大学准教授）、佐藤道生（慶應大学教授）、高田信敬（鶴見大学教授）、堀川貴司（鶴見大学教授）、間島由美子（国立国会図書館主査）、村木敬子（大東急記念文庫学芸員）、和田恭幸（龍谷大学准教授）

（1）概 要

昨年度に引き続き、写真の電子カード作成を行った。当該作業は7月頃終了の見込みであったところ、枚数が予想以上に多かったため終了が大幅にずれ込む結果となった。12月に、それまでに作成したカードをDVDに焼き付けて全員に配付し、次いで1月29日（火）に第1回の研究会を行い、調査成果を各自報告するとともに、枚数の予想超過を踏まえて今後の作業手順や方法について再検討した。なお研究会以降も調査・研究の成果を随時メール等で寄せてもらい、資料館においてそれらを集約している。

(2) 活動記録

[研究会]

第1回研究会

- ・日程 平成20年1月29日(火)
- ・場所 国文学研究資料館2号書庫講義室
- ・プログラム
 - 1 国文学研究資料館落合博志准教授 発表題目「川瀬一馬氏旧蔵写真における能楽資料について」
 - 2 各自の調査報告及び意見交換
 - 3 打ち合わせ(今後の作業手順・方法等について)

[資料調査]

本共同研究費によるものではないが、科研費により平成20年2月17～21日に実施した布施美術館(滋賀県伊香郡高月町)の資料調査において、川瀬氏旧蔵古典籍写真と関わる資料の確認調査を併せて行った。

[展示・シンポジウム]

(なし)

[研究成果]

研究代表者・研究分担者による調査・研究成果を資料館において集約中。

[その他]

今年度は移転の関係で年度末に研究会が開催できなかったため、その補いとして、来年度早期(5月頃)に第1回の研究会を行いたいと考えている。



情報事業センター

1. 調査収集事業部

【総括】

調査収集事業部では、本年度も国内外の研究者・研究機関等との緊密な協力のもとに、資料の特性を踏まえた調査と、それに基づく計画的な収集を実施した。具体的には、国内外の所蔵機関（103ヶ所）に存在する日本文学原典及びその関連資料の調査と、撮影（マイクロフィルムまたはデジタル撮影）による収集、及びアーカイブズ調査収集の2点である。調査についてはほぼ年度当初に予定していたとおりの成果を挙げることができた。収集に関しては移転の影響で予定の約半分の成果となった。

さらに、調査収集の成果を共有し、広く社会に還元するため、調査収集の成果を基盤とする共同研究である基幹研究「王朝文学の流布と継承」「十九世紀の出版と流通」を昨年度より開始した。また、昨年度に引き続き調査研究シンポジウム（第3回）を行った。

なお、本年度も「リプリント日本近代文学」第4期40点を刊行した。

【国内外の所蔵機関に存在する日本文学原典及びそれに関連する資料の調査・収集】

（1）日本文学原典及びその関連資料の調査・収集

平成19年度においては、約10,000点の調査、約1,650点の収集を行った。中心となる地域別調査・広域調査（計98ヶ所）のほか、先方機関と連携して行う連携調査（計5カ所）を行った。近代文献を対象とする特定領域調査・収集は、研究プロジェクトの進捗を優先させたため、今年度予定していた調査・収集を見送った。なお、継続して進めている連携調査の成果として、青田寿美責任編集「大阪大学附属図書館蔵小野文庫目録」を『調査研究報告』第28号に掲載するとともに、「立命館と立命館をめぐる文人たち」と題した展示（10月22日-11月22日、於立命館大学図書館展示ホール）及びシンポジウム（11月16日、於立命館大学創思館カンファレンスホール）をいずれも立命館大学図書館・立命館大学文学部と共催した。

（2）日本古典籍資料調査データベース

本年度は平成18年度に調査した調査カードを中心に、画像データ約8,000件、書誌データ約9,000件の入力を行った。計約130,000件が利用に供される運びとなった。約10,000件ずつ蓄積する新規カードのデジタル化は、今後も継続する予定である。

（3）調査収集の成果としての刊行物

『調査研究報告』28号を刊行した。

また、オンデマンド出版による、開化期戯作など明治文学の復刻である「リプリント日本近代文学」第4期40点を刊行した。（来年度は、第5期40点、第6期40点を刊行の予定である。）

（4）調査収集の成果の共有と還元のための取り組み

調査収集の成果はこれまでもマイクロフィルム公開等の形で国文学研究に寄与してきたが、今後それを更に推進するための取り組みとして、昨年度より当館の基幹研究として「文学資源の総合研究」

という研究テーマのもとに「王朝文学の流布と継承」「十九世紀の出版と流通」の共同研究を開始した。それぞれ調査員が共同研究者として加わり、5年間の共同研究を行うものである。また、調査収集の成果として、調査研究シンポジウム（第3回）において久保木助教、木戸助教がそれぞれ「模写本発掘－国文研蔵マイクロ資料の中から、平安私家集をいくつか－」、「明治初期の江差町における書物の流通－江差町郷土資料館蔵関川家文書を中心に－」を発表した。この内容は調査研究報告第28号に掲載されている。

【アーカイブズ調査・収集】

（1） 全国の史料保存利用機関の史料群情報、目録情報・刊行状況の調査及び収集を行い、目録類を収集した。

（2） 史料の存在形態調査

史料存在形態情報の記述・整理、簡易的保存措置、目録作成・データベース作成、原本テキスト化及び保存と利用のための基盤整備として、岡山・広島・鳥取県下市町村役場引継文書、信濃国松代真田家文書（7）（8）を収録した『史料目録』第85集、第86集、第87集、『史料叢書』第10巻（「藩の文書管理」、名著出版）を刊行した。

（3） 所蔵史料に関連する史料の調査及び収集資料

信濃国松代真田家文書に関連して真田宝物館の調査を行い、昨年に手書き目録を電子化してデータベースを作成したものを活用して調査を実施、基盤を整備した。

松江藩関係の調査は、松江市との共同調査として、元松江藩家老三谷家の調査を実施した。

『史料目録』及び『史料叢書』第10巻に関連しての調査を実施した。

（4） 現物史料の受け入れ

史料10件（満州事変関係書類など）を購入した。

2. 電子情報事業部

【総括】

電子情報事業部は、情報システムの有効・適切な運用をはかり、研究および事業の成果を電子情報として組織化し、データベース化を進め、研究者、大学院生、社会一般に、インターネットにより提供している。さらに、国内外の関連研究機関などとの連携を進め、情報資源共有化事業を進めている。

情報システム環境は、第7期情報システム計画（平成17-23年度）の第3年度に当たり、2006年2月1日に第6期情報システムからリプレース後、現在順調に稼働している。

一年を通じて24時間不断の稼働を保持し、情報システムと情報資源の安定的な管理運用を行い、高い信頼を得ている。

19年度は、新規の2本のデータベースを加え、合計23本のデータベースの公開を滞りなく行った。データ追加、更新などは時機を見つつ可能な限り迅速に対応している。各データベースには、個々に責任者と担当者を置き、高信頼度のサービスを維持している。

一方、データベースと関連システムの保存、保守、更新など日々の管理運用業務は、学術情報課に属する、システム管理係と学術情報係が当たっている。また、データベースサービスシステムの運用管理を行っている。共同利用者の便宜の向上と高信頼度の情報提供のために、さらにより高度なレファレンス業務を行っている。加えて、データベース利用に関わる評価のための利用統計等のデータ収集と分析を行い、データベース利用環境の向上に努めた。

複合領域研究系が進める資源共有化プロジェクトと連携し、現在独立しているデータベースの一元的共有化を事業として検討、準備した。実験環境の整備、情報資源のメタデータ作成、国際標準情報検索システムの導入と調整、実証実験と評価を継続した。機構本部が進める研究資源共有化事業に積極的に協力し、関連してシステム環境の整備を行った。また、データベースの現状調査や知的財産権関連調査にも協力し、これらの活動を通じて多くの研究機関との連携あるいは接続を成功させ実用化の準備を整えた。

なお、機構本部による共有化を目的としたデータベース作成モニター募集に応募し、「アーカイブズ学文献データベース」が採択された。

電子情報事業部における事業の総合評価を以下にまとめる。

年度計画に応じた全事業は滞りなく進捗し、目標を達成し、利用者からも高い評価を得た。今年度も、情報システム環境の整備とデータベースを中心とする情報資源の機能拡充、共有化整備を進め、発展性に寄与した。借用端末の入れ替えを滞りなく実施した。情報資源のホームページからの公開は、利用者、アクセス数等の増大、並びに各種意見や要望への対応により、高い社会性と公開性を達成した。

【電子情報事業部の運営】

（1）組織体制と運営

部長（古瀬蔵教授）を置き、副部長（野本忠司准教授）他、10名の教員の体制により事業を運営し、システム管理係、学術情報係が実務処理を担当した。

借用端末入れ替えのための仕様策定委員会等を開催し、導入を決定した。

各月1回、定期的に部会を行い、全事業の進捗度をチェックし、計画の実施状況の把握と評価に務めた。また、電子情報事業に関わる多種の事項について審議、立案等を行った。より専門的な事項に

については、専門作業部会を設け、審議した。

(2) 情報システムの運用管理

情報システムは、UNIX サーバおよび Windows サーバによる分散型システムと館内 LAN（基幹系 1 GB、支線系 100 MB）に接続されたクライアント PC とで構成され、主に館内の様々な情報処理、並びにインターネット経由による館外データベースサービス等に用いられている。

平成 18 年 2 月 1 日より、第 7 期情報システムが本格的に稼働を開始した。管理運用体制として、部長、副部長、他、10 名の教員が当たり、実務、事務処理はシステム管理係並びに学術情報係が担った。なお、システムの日常的な監視、操作、記録等の実務作業は、副部長、システム管理係の指示により、外注 SE に分担させた。

情報システムは、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークから構成されるが、これらそれぞれについて、ほぼ 365 日 24 時間不断の安定稼働を実現している。情報システムに関する実績評価分析は、システム稼働状況（CPU 稼働率、ディスク使用率、ネットワーク・トラフィック）による。また、情報システムに蓄積された日本文学とそれに関わるアーカイブズ研究資料情報等の資源監視、プロセス監視、ユーザ管理、バックアップの定期的な運用管理を行っている。とりわけ、情報システムで稼働しているデータベースの安定的稼働に努め、館内外の研究者等に重要なデータベースサービスを提供した。

また、平成 19 年 2 月 1 日より研究系クライアント PC（88 台）及びプリンター（26 台）の運用を開始した。特にセキュリティ、データ保守を重視し、システムソフトウェアのアップデートの一元管理、各 PC データの自動バックアップ等の仕組みを取り入れた。

本年度は事務系クライアント PC（37 台）及びプリンター（8 台）の入れ替えを行い、本年 2 月 1 日より運用を開始した。データ保守を重視し、各 PC のデータ領域をファイルサーバ上に構築する仕組みを取り入れた。

(3) ネットワークシステムの運用管理

研究、教育、業務におけるネットワークシステムについて、障害に強く、かつ安定的な稼働に努め、また電子メール等へのウイルス進入に対する予防対策、緊急対応、システムの更新、パッチ等を可能な限り速やかに行い、対処し、高信頼性の運用を保持した。

第 7 期システムでは、とくにセキュリティ対策に万全を期すため、厳重な接続機器の管理を個々に行っている。

本年度はセキュリティと利便性を両立させるため、スパムファイアウォールと SSL-VPN の導入を行った。

(4) 情報資源の運用管理

公開されている 23 本のデータベースの年間を通じて切れ目のない 24 時間安定的な稼働を行い、館内外の利用者の評価を得た。データベースによっては、時機を見つつデータの追加拡充を進め、また誤り等の更新を速やかに行っている。とくに平成 18 年度より本格公開した「日本古典資料調査データベース」には、本年度調整を加えて完成度を高めた。なお、これら情報資源の定期的なバックアップを行い、不測の事態に対しても十分な対応を行い、高信頼度の運用を行った。

(5) 情報サービスの向上

利用実態の把握のため、データベース利用統計は、WEB 環境のサーバシステムでの WEB ページのアクセス記録等の分析を進めている。

(6) 人間文化研究機構との連携

人間文化研究機構の「研究資源共有化事業」の一環として、機構内の他機関とのデータベースのフ

フォーマットの統合が図られ、共有化システムの導入が行われた。平成 18 年度のダブリン・コアメタデータに続いて、今年度は 5W1H と時空間情報のメタデータマッピングを行い、データを提供し、20 年 4 月からの共有化システム一般公開に備えた。本事業部は、館内データベース担当者と機構担当者との調整、技術的なコンサルテーション等、様々な形で協力した。

【個別事業の実績、評価】

(1) 情報システムの運用管理

情報システムと情報資源のセキュリティ確保と安定的運用管理を行うため、以下のように業務を行った。

① 情報システムの運営

システムのオペレーション、バージョンアップ、パッチ作業等は、部長の指揮の下、システム管理係により実施した。監視と操作作業は外注 SE により行い、係において分析評価した。今年度においては、情報システムのハードウェア、ソフトウェア、オペレーションに起因する重大なシステム障害、およびネットワーク障害、さらに外部からの干渉（クラッキング等）による重大なシステム障害は発生していない。（システムの停止は、計画停電のために 1 回、パッチ一括適用のために 1 回、合計 2 回あった。）

一方、PC 系、プリンタ系の障害等については、システム管理係および業者の保守窓口による対応を図った。また、新規 PC 端末導入時には、説明会を 2 回開催し、操作要領の周知を図った。

② 共同利用の推進

共同利用等の内容、水準に関する目標を達成するための措置として、資源共有化システムの管理運用を行った。また、人間文化研究機構に属する機関のうち、国文学研究資料館、国立歴史民俗博物館、国立民族学博物館、国際日本文化研究センターとの安定的なシステム接続運用を行った。

一方、人間文化研究機構「研究資源共有化事業」にも、積極的にに関わり、その責務を果たしている。さらに、複合領域研究系での共同研究「文化情報資源の共有化システムに関する研究」への協力も積極的に行った。

③ 立川新施設の移転

本年度は国文学研究資料館の立川新施設への移転に当たり、情報システムの移転においては、各種サービスの停止期間を可能な限り短くするよう努めた。電源、ネットワークの構成を一新しながらも、サーバ起動後にはサービスの即時再開を果たすことができた。

一方、各利用者の PC 端末においては、個々での変更を行うことなく利用再開ができた。

(2) データベースサービスの向上

データベースサービスシステムに基づき、データベースサービスのための総合窓口や、レファレンスに関する業務についてシステム化している。情報資料サービス事業部と連携して業務統計を取得し、サービスの分析を進めた。

（業務統計は付表 2 参照）。

(3) データベースの管理運用

データベースと関連システムの保存と運用管理を行っている。また、研究系や他事業部が作成するデータベースと関連システムは、緊密な関係の下に、事業協力を行っている。

当館ホームページ「電子資料館」のページから公開しているデータベースは以下の通りである

（各データベースの概要は付表 1 参照）。

○図書・雑誌所蔵目録（OPAC）

- マイクロ/デジタル資料・和古書所蔵目録*（これまで公開していたマイクロ資料・和古書目録データベースを高次化したデータベース）
- 国文学論文目録データベース
- 日本古典籍総合目録
- コーニツキー版 欧州所在日本古書総合目録
- 日本古典資料調査データベース
- 近代文献情報データベース（近代書誌・近代画像データベース、明治期出版広告データベース）
- 古筆切所収情報データベース
- 和刻本漢籍総合データベース*
- 連歌・演能・雅楽データベース*
- 収蔵アーカイブズ情報データベース
- 「史料所在情報・検索」システム
- 史料情報共有化データベース
- 伊豆韭山江川家文書データベース
- 日本古典文学本文データベース
- 二十一代集データベース
- 吾妻鏡データベース
- 絵入り源氏物語データベース
- 古事類苑データベース
- 歴史人物画像データベース
- 新奈良絵本画像データベース
- 実業史絵画データベース
- 館蔵和古書画像データベース

〈注〉 *印を付した3本のデータベースは、今年度公開を開始。

データベース利用統計は付表2を参照。

上記の各データベースは、データベース管理簿を作成し、整理し、管理している。当館が著作権を有しないデータベースを受け入れて公開する場合は、当館への著作権譲渡または著作権使用許諾を必要とし、当管理簿で権利関係を明確にしている。なお、知的財産権に係わる、人間文化研究機構全体のデータベース台帳の作成にも協力し、現在、公開中、試験公開中等の当館の約50本のデータベースが収載されている。

（4）国文学年鑑の刊行

日本文学に関する研究情報を網羅した平成17年版の国文学年鑑の刊行を行った。国文学年鑑は当版で終刊とし、国文学論文目録データベースに吸収することになる。

『国文学年鑑』平成17年版統計

発行日 平成19年9月10日

発行所 株式会社 至文堂

総頁数 987頁

販売価格 14,000円

発行部数 複製部数 700部

内訳

雑誌・紀要・論文集所載論文件数

16,342件

特集号一覧件数	282 件
学会一覧件数	44 件
学会研究発表一覧件数	186 件
新指定文化財数	4 件
文部科学省科学研究費補助金等交付数	917 件
受賞一覧件数	88 件
訃報件数	20 件
単行本一覧件数	2,860 件
収載雑誌紀要一覧件数	1,250 件
発行所一覧件数	1,003 件
翻刻複製作品数	998 件
執筆者数	10,250 件

3. 普及・連携活動事業部

【講演会】

(1) 概 要

① 連続講演

日本文芸の普及を図り、古典について広く深く理解してもらうため、第一線で活躍している研究者による連続講演を、平成 12 年度から年 1 回（全 5 回）開催している。平成 19 年度は、「近松門左衛門の世界」のテーマで、明治大学文学部名誉教授・原道生氏による連続講演を行った。今回も各回 130 人ほどの参加者があり、最終回まで熱心に聴講した。武士であった近松が浄瑠璃作者としての覚悟の出発をするところから、72 歳で死ぬまでの活動を、様々な代表的作品の鑑賞を通して、深く切り込んで考えるという内容であった。近松が歌舞伎作者として、役者の坂田藤十郎と組んだ時の「やつし」の演技が、浄瑠璃ではどのような展開をしたのかなどを中心に、時にはビデオや DVD での歌舞伎・浄瑠璃鑑賞もまじえて、易しい言葉で丁寧深く説明された。この講演は、笠間書院から『古典ルネッサンス』シリーズとして刊行の予定である。

② お別れ講演会

当館では平成 20 年 2 月の立川移転を前に、10 月 22 日（月）から 11 月 22 日（木）まで、品川区での最後の展示会「お別れ展示」を開催し、その最終日の 11 月 22 日に「お別れ講演会」を開催した。最後の講演会にふさわしい地元品川に関するテーマとし、鈴木淳副館長による「江戸における戸越」と柘植信行品川区立品川歴史館副館長による「港と宿の風景―歴史から見た品川―」の 2 つの講演が行われた。これには品川区民を中心に 210 名が集り、これまで開催された講演会の中で一番のにぎわいとなった。当日の様子は、移転期間中の 2 月 16 日（再放送 17 日）に「ケーブルテレビ品川」で放送された。

(2) 活動記録

① 連続講演

名 称：平成 19 年度連続講演

テーマ：近松門左衛門の世界

講 師：原 道生（明治大学名誉教授）

日 程：第 1 回	10 月 17 日（水）	浄瑠璃作者近松の誕生	141 名
第 2 回	10 月 24 日（水）	歌舞伎作者としての活躍	126 名
第 3 回	10 月 31 日（水）	世話浄瑠璃の創始	120 名
第 4 回	11 月 14 日（水）	多彩な時代物の展開	111 名
第 5 回	11 月 21 日（水）	晩年期諸作の円熟	114 名

場 所：当館大会議室

参加者数：612 名（延べ）

参加者内訳：学生・院生 3 名、大学・研究機関関係者 8 名、一般社会人 115 名

② お別れ講演会

名 称：品川区とのお別れ講演会

日 時：平成 19 年 11 月 22 日（木）15 時 00 分～17 時 30 分

場 所：当館大会議室

演題と講師：「江戸における戸越」

鈴木 淳（当館副館長）

「港と宿の風景―歴史から見た品川―」 柘植信行（品川区立品川歴史館副館長）

参加者数：210 名

【講演会・シンポジウム】

（1）概 要

立川移転記念事業の一環として、また 2008 年が『源氏物語』が文献に初めて記されてちょうど一千年にあたることから、9 月 22 日（土）に、アミュー立川（立川市市民会館）で、講演会・シンポジウム「一千年目の源氏物語」が開催された。

鈴木淳副館長の開会挨拶、清水庄平立川市長の挨拶のあと、大岡信氏は、「千年前にこれが日本で書かれたことは、人類史上特筆すべきこと」、岡野弘彦氏は、「源氏は女性が神に近かった古代人の伝統を受けつぎ、『漢才』に対する日本人の大和魂を伝えている」と述べられ、また丸谷オ一氏から、「源氏物語が高く評価され始めたのは昭和になってから」「小説で大事なのは構成と文体。両方そなえた長編小説の模範を千年前に持っていることはすばらしい」との発言があった。加賀美幸子氏は、「あまりむずかしく考えず、まず近づくことが大事」と語り、講演の中で『源氏物語』の朗読も行われた。シンポジウムは、会場で配付した質問用紙に基づき、パネラーへの質問が行われ、それぞれの立場から、『源氏物語』の魅力や『源氏』がどのように受容されてきたかについて語られた。

当日の様子は、「東京新聞」（10 月 5 日付夕刊）、「朝日新聞」（10 月 10 日付朝刊）、「日本経済新聞」（10 月 20 日付朝刊）などで紹介され、大きな反響を呼んだ。また 10 月 14 日午後 6 時から、NHK 教育テレビ「日曜フォーラム」でも放送された。平成 20 年「源氏物語千年紀」記念行事の先駆けとして、大きな役割を果たすことができた。

（2）活動記録

名 称：立川移転記念事業 講演会・シンポジウム「一千年目の源氏物語」

日 時：平成 19 年 9 月 22 日（土）13 時 00 分～17 時 00 分

場 所：アミューたちかわ（立川市市民会館）

テーマ：一千年目の源氏物語

参加者：約 1,200 名

講演題目：

「近江の君について」

大岡 信（詩人）

「『いろごのみ』の女神と光源氏―神話から物語へ―」

岡野弘彦（歌人）

「昭和が発見したもの」

丸谷オ一（作家）

「私にとっての源氏物語」

加賀美幸子（NHK 番組キャスター）

パネラー：大岡 信・岡野弘彦・丸谷オ一・加賀美幸子・伊井春樹（司会、当館館長）

【シンポジウム】

（1）概 要

平成 19 年度春季特別展示・人間文化研究機構連携展示「幻の博物館の“紙”―日本実業史博物館旧蔵コレクション展―」（5 月 28 日～6 月 15 日）開催期間中の 6 月 9 日（土）に、春季シンポジウム「幻の博物館の“紙”」を開催した。これは人間文化研究機構の連携研究「日本実業史博物館資料の高度活用」の研究成果の一環でもある。日本実業史博物館は、なぜ幻の博物館なのか？ 準備室に遺されたアーカイブズから解き明し、渋沢栄一が起業に関わった製紙産業資料を紹介した。さらにコレクションに含まれる戦前の和紙に隠された珍しい技術を探り、海外の阿蘭陀・シーボルトの和紙と英国・

パークスの和紙コレクションの比較研究、連携研究として展示資料に関する記述分析・状態調査の研究の成果としてのX線分析に関する発表をもとに活発なシンポジウムとなった。

(2) 活動記録

名 称：平成19年度春季シンポジウム「幻の博物館の「紙」」

日 時：平成19年6月9日（土）13時30分～17時00分

場 所：当館大会議室

テーマ：幻の博物館の“紙”

参加者：120名

題目とパネラー：

「幻の日本実業史博物館紹介—実業史の中の紙」

青木 睦（当館准教授）

「和紙にみる昭和の技術」

増田勝彦（昭和女子大学教授）

「海外のジャパニーズ—WASHI—」

稲葉政満（東京芸術大学大学院教授）

「アチック・ミュージアムと紙」

近藤雅樹（国立民族学博物館教授）

「科学の目で見える紙資料」

金山正子（元興寺文化財研究所記録資料調査修復室長）

【展 示】

(1) 概 要

館蔵の古典籍や他機関所蔵の貴重な古典籍などを展示し、研究教育の向上に努めつつ、一般に対する普及を図ることを目的として、通常展示、特別展示を開催している。専門の研究者・学生及び一般の愛好者を対象として、当館が収集した古典籍や他機関所蔵の古典籍を、テーマに沿って随時公開し、研究・教育の向上と、一般への普及を図ることを目的として、以下の展示を開催した。

① 通常展示「和書のさまざま—書誌学入門—」

本の装訂・書型・料紙などを当館所蔵古典籍を用いて解説したもので、書誌学の基礎知識をわかりやすく説き、研究・教育に裨益することを目的として毎年開催している。昭和59年以来恒例となっている企画で、毎年内容の更新を行っている。毎回、展示リーフレットを作成していたが、今回、初めて冊子の展示図録『和書のさまざま—書誌学入門—』を作成した。この冊子は、たいへん好評で、展示終了後も、この冊子を入手したいとの申し込みが相次いだ。日本古典籍講習会でも配付し、日本古典籍講習会の副教材の役割も果たしている。

② 春季特別展「幻の博物館の“紙”—日本実業史博物館旧蔵コレクション展—」

春季特別展「幻の博物館の“紙”—日本実業史博物館旧蔵コレクション展—」は、人間文化研究機構として各機関相互の連携を深める連携展示ならびに連携研究「日本実業史博物館資料の高度活用」の研究成果としての企画でもある。当館で開催後、人間文化研究機構連携展示として、1月16日（水）～2月11日（月）に国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市）でも開催された。

今回の展示は、渋沢敬三（渋沢栄一の嫡孫）が設立の構想に関わった日本実業史博物館の旧蔵コレクションの中から「紙・製紙産業」に関する資料を展示した。この博物館は、戦後社会の激変により実現されることなく、まさに「幻の博物館」となった。

本展示の目的は、渋沢栄一に関わったさまざまな産業部門のなかでの紙・製紙産業を実業史に関する博物館として、具体的にどのように展示しようとしたのか、遺されたコレクションから検証するところにある。さらに、かつて生活を彩った紙製品の数々を紹介して、現在失われつつある紙文化の世界を再現し、また楽しく見て触れる空間を演出した。戦前に収集された希少な紙の資料であることに、観覧者から驚嘆の声を多くいただいた。展示会場では映像による研究報告DVD版「復活！ 日本実

業史博物館 調査報告 2006 年」(12 分)により、渋沢敬三の活動や博物館の概要をわかりやすく公開した。図録においてもその雰囲気味わって頂き、「幻の博物館」の実像に迫った企画として好評を得、17 日間で 1,146 名の観覧者があった。

③ お別れ展示

当館では平成 20 年 2 月の立川移転を前に、10 月 22 日(月)から 11 月 22 日(木)まで、品川区での最後の展示会「お別れ展示」を開催した。これは貴重書等、近年当館の所蔵となった新収資料 40 点と資料館 35 年間(文部省史料館時代を含めると 56 年間)の歴史を出版物とポスターによって辿ったものである。開催期間中、「東京新聞」東京版(10 月 23 日付)で大きく取り上げられたこともあり、新聞掲載後は連日、多くの入場者があった。なお、展示最終日の 11 月 22 日(木)には、当館大会議室で「お別れ講演会」が開催された。

(2) 活動記録

① 通常展示

日 程：平成 19 年 4 月 16 日(月)～5 月 18 日(金)

テーマ：和書のさまざま―書誌学入門―

場 所：当館展示室

入場者：514 名(1 日平均 23.4 名)

② 春季特別展・人間文化研究機構連携展示

日 程：平成 19 年 5 月 28 日(月)～6 月 15 日(金)

テーマ：「幻の博物館の紙―日本実業史博物館旧蔵コレクション展―」

場 所：当館展示室

入場者：1,146 名(1 日平均 67.4 名)

② 人間文化研究機構連携展示

日 程：平成 20 年 1 月 16 日(水)～2 月 11 日(月)

テーマ：「幻の博物館の紙―日本実業史博物館旧蔵コレクション展―」

場 所：国立歴史民俗博物館

③ お別れ展示

日 程：平成 19 年 10 月 22 日(月)～11 月 22 日(木)

場 所：当館展示室

入場者：1,020 名(1 日平均 42.5 名)

【アーカイブズ・カレッジ】

(1) 概 要

多様な史資料を取扱う専門的人材を養成するため、長期コース・短期コースをそれぞれ年 1 回開催しており、また、カリキュラム等の改善を図るため、講義を担当するアーカイブズ研究系教員を中心にカリキュラム研究会を開催している。

長期コースは、前期 7 月 2 日(月)から 4 週間、後期 8 月 27 日(月)から 4 週間の日程で国文学研究資料館において開催し、昨年度からの継続履修生(複数年度分割履修生)6 名を含め合計 36 名が受講した。うち史料保存機関職員や大学教職員などの社会人は 12 名、大学院生は 24 名であった。定員は 35 名だが、国内には類似の研修会がなく本カレッジへの参加希望が強いいため、申込者全員を受け入れることにしたものである。なお今年度、長期コースの全 6 科目を修了した 30 名が修了論文を提出し、全員が審査に合格した。

短期コースは、11月5日（月）～10日（土）に山口県教育会館・山口県文書館（山口市）で開催され、24名が受講した。うち史料保存機関職員や大学教職員などの社会人は22名、大学院生は2名であった。今年度短期コース受講生に対するアンケートによれば、授業科目の構成については、「かなり適切」「どちらかといえば適切」を合わせ86%、授業の方法については、「かなり適切」とするものが52%で、「どちらかといえば適切」とした者を加えると参加者の91%と、高い満足度を示し、高い評価を得ている。一方で、広報については前年度、「かなり適切」が17%しかなく、13%が「改善の余地がある」としていたが、今年度は「かなり適切」30%、「どちらかといえば適切」52%となり、改善が認められた。なお、カリキュラム等の改善を図るための研究会は、アーカイブズ研究系教員を中心に5回開催した。

（2）活動記録

① 長期コース

日 程：平成19年7月2日（月）～27日（金）、8月27日（月）～9月21日（金）

場 所：当館大会議室ほか

受講者：36名

② 短期コース

日 程：平成19年11月5日（月）～10日（土）

場 所：山口県教育会館ほか

受講者：24名

【日本古典籍講習会】

（1）概 要

日本古典籍講習会は、日本古典籍の整理・目録化を促進し、広く活用されるよう環境の整備を図るため、書誌学の専門知識や整理方法の技術修得を目的として、各所蔵機関の図書館員等を対象に、平成15年度から開始したもので、今年度で5回目である。第1回の平成15年度は、海外の図書館員等を対象として5日間開催、16年度は国立国会図書館の協力を得て開催、17年度からは、国立国会図書館との共催で開催している。第2回（16年度）以降は、国内の図書館員等を対象に3日間開催している。今年度は、平成20年1月16日（水）から18日（金）、国立国会図書館で開催され、大学図書館22名、公共図書館10名、計32名が受講した。

内容は、昨年と同様、日本古典籍の基礎知識、和古書目録の作成、データベース化の方法、近世の出版と流通、くずし字の読み方、蔵書印の見方・読み方などの講義、当館及び国立国会図書館の和古書目録規則の説明、古典籍資料の保存・管理法、貴重書紹介、書庫の見学などであった。会場は、昨年度と今年度は、当館のアスベスト工事と移転準備のため、国立国会図書館で3日間開催したが、立川移転後は当館と国立国会図書館で開催する予定である。

終了後のアンケートでは、講習会参加者32名のうち「満足」が31名、「普通」が1名、と高い満足度を示した。また「目録のとり方・電子化・出版史・蔵書印等、バラエティに富んだ内容でとても勉強になりました。」「全般に実習や実践的な内容が多く、非常に参考になりました。」などの意見があり、たいへん好評であった。

（2）活動記録

日 程：平成20年1月16日（水）～18日（金）

場 所：国立国会図書館

受講者：32名（内訳：大学図書館名、公共図書館名）

【国際日本文学研究集会】

(1) 概 要

国際日本文学研究集会は、日本文学研究の国際的な発展を目的とし、昭和52年から毎年11月に開催され、今年度まで31回の集会を重ねてきた。第31回国際日本文学研究集会を実施するため、国際日本文学研究集会委員会を2回開催し、実施計画の策定、招待研究発表者・応募研究発表者の採択などを行った。11月15日（木）、16日（金）の2日間にわたった研究集会では、「手紙と日記—対話する私/私との対話—」というテーマをめぐって、12人の研究発表、5人ポスターセッション発表とERKIN H. Can アンカラ大学准教授、小島孝之成城大学教授の2名の公開講演といった合計19名もの発表・講演が行われるという、充実したプログラムであった。参加者は123名、そのうち海外及び国内在住の15ヶ国の外国人研究者計38名が参加した。活気あふれる研究発表と、活発な質疑応答は、出席者に多くの刺激を与えることができた。海外における日本文学研究者との交流、国内に滞在する留学生の支援等をめざして発足した本集会は、今年で31回目の開催となり、多くの参加者より、本集会の日本文学研究の国際化推進に対する貢献が高く評価された。年度末に『第31回国際日本文学研究集会会議録』（約270頁）を刊行した。

(2) 活動記録

日 程：平成19年11月15日（木）～16日（金）

場 所：当館大会議室

テーマ：手紙と日記—対話する私/私との対話—

参加者：123名（内訳：日本85名、外国籍38名）

講 演：『源氏物語』のトルコ語訳について

ERKIN H. Can

中世文学における対話

小島孝之

研究発表：

『馬琴日記』と〈異国〉—江戸後期の日常がはぐくむ〈異世界〉への探究心— 金 学淳

国際人成島柳北の旅した明治日本 Matthew FRALEIGH

明治初年の東本願寺上海別院における日中文化交流

—松本白華・北方心泉を中心に— 川邊雄大

夕暮れの「待つ恋」の歌—中国閨怨詩との異同を中心に— 金 中

戦場の便り—『後三年合戦絵詞』の一場面をめぐって— 楊 暁捷

永遠と停頓の詩人・井上靖—青春・太古に響き合う『異国の星』をめぐって— 顧 偉良

自画像と自我像—渡辺一夫『敗戦日記』を読む— クレアモント康子

日記文学としての原爆文学の考察—原民喜の場合— Urszula STYCZEK

1940年代文学研究の基底—『迷路』を座標軸としてたどる能楽界の戦中期— 棚町知彌

ストリッパー女王からの手紙—長部日出雄の読み方— 郭 南燕

獄中書簡集『罪と死と愛と』と対話する文学者—金石範『祭司なき祭り』論— 林 相珉

「木の国」に埋まっている言葉を掘り出す

—大庭みな子『オレゴン夢十夜』における日記形式— Dennitza GABRAKOVA

ポスターセッション発表：

『土佐日記』におけるみやこへの思いとその象徴 Attaya SUWANRADA

平安時代における李白考究 張 培華

鴨長明の表現の対話性 HARASZTI Zsanett

森鷗外「興津弥五右衛門の遺書」における〈遺書〉—その形式と機能をめぐって—

【子ども見学デー】

(1) 概 要

小学生を対象とした「子ども見学デー」を8月22日（水）に開催した。「子ども見学デー」は、法人化された平成16年度から開催しているもので、今回で4回目である。この催しは、地元・品川区の広報誌「広報しながわ」や「ケーブルテレビ品川」で紹介され、区内の小学生と保護者等、10数人が参加した。鈴木副館長の挨拶のあと、相田助教「コンピュータ漢字のお話」、山下教授「夏の百人一首・カルタ取り大会」の講義（お話）が行われた。「コンピュータ漢字のお話」では、漢字の数はいくつあるか、一番画数の多い漢字は何か、など画像を使って説明が行われ、「夏の百人一首・カルタ取り大会」では、カルタの歴史や歴史的仮名遣いの説明のあと、小学生と保護者に分かれて、百人一首カルタ取り大会が行われた。休憩時間には、展示した江戸時代の絵本、昔のカルタなどを見学し、親子揃って古典に親しんだ。

平成20年2月に立川市に移転のため、今回が品川区での最後の開催となったが、参加者からは「立川に移転してもぜひ参加したい」との声があった。

(2) 活動記録

日 程：平成19年8月22日（水）14時00分～15時30分

場 所：当館大会議室

内 容：「コンピュータ漢字のお話」

相田 満（当館助教）

「夏の百人一首・カルタ取り大会」

山下則子（当館教授）

参加者：12名（内訳：子ども4名、保護者ほか8名）

4. 情報資料サービス事業部

【総括】

平成 19 年度は、平成 20 年 2 月の立川移転のため、来館利用は 10 月から、郵送または図書館相互協力による利用は 11 月から、共に 3 月までサービスを休止した。そのため利用者には多大な不便をかけたが、その間に立川での開館に向けて、主として無断持出防止装置の配備、及び開架スペースの大幅な増大に伴う準備作業を予定通り行った。

図書資料の移転による収集、受入・整理、保存の作業への影響は、最小限に止めた。

平成 19 年 8 月、従来の「マイクロ資料・和古書目録データベース」を高次化した「マイクロ/デジタル資料・和古書所蔵目録」を公開した。本データベースは、目録データから原本画像にリンクし、調査収集事業の一環としてデジタル撮影により収集した資料の画像を初めて公開するものである。また、本データベースから「日本古典資料調査データベース」へのリンクも可能になった。

本年度は、従来通り所蔵資料の一層の充実を図ると共に、立川という新しい環境での業務再開のための試行の年であったと言えよう。平成 20 年 7 月からは図書館の土曜開館実施が決まっており、そのための準備も併せて行っている。

【図書資料の収集】

(1) 概要

図書資料委員会で所蔵資料全体を考慮して計画をたて収集している。加えて、一昨年度からは館として特色あるコレクションを形成し、広く普及利用を図ってゆく方針を確認し、蔵書の充実に努めている。今後はこれらのコレクションの存在を積極的にアピールし、利用を広めてゆくことが懸案である。

(2) 活動記録

- ① 図書資料の体系的な収集に努めた。受入統計は以下のとおりである。

資料 1 図書資料受入統計

資料種別		日本文学関係				歴史関係			
		点数等		冊数等		点数等		冊数等	
		平成 19 年度	累 積	平成 19 年度	累 積	平成 19 年度	累 積	平成 19 年度	累 積
収集マイクロ資料	マイクロフィルム	1,104 点	179,545 点	182 リール	40,266 リール	1 件	187 件	38 リール	5,846 リール
	マイクロフィッシュ	0 点	16,667 点	0 枚	57,358 枚	—	—	—	—
	紙焼写真本	—	—	12,622 枚	74,208 冊	—	—	158 冊	11,196 冊
図書	写本・版本	462 点	10,318 点	583 冊	35,309 冊	—	—	—	—
	活字本・影印本等	—	—	1,659 冊	91,128 冊	—	—	395 冊	60,425 冊
	逐次刊行物	1,439 誌	5,509 誌	3,712 冊	166,869 冊	—	—	1,503 冊	62,190 冊
所 蔵 史 料		—	—	—	—	18 件	430 件	—	約500,000 点
寄託資料・寄託史料		2 件 53 点	7 件1,073 点	53 冊	4,515 冊	0 件	17 件	0 件	7,032 点

- ② 長らく寄託資料として利用に供していた久松潜一旧蔵書（129 点 150 冊）が寄贈された。また、18 件の文書群の寄贈を決定した（日常的な郵送による寄贈を除く）。寄託については、2 件 53 点の資料を受け入れ、3 年の寄託期限が切れた資料 14 件について、更新を行った。

資料2 主な寄贈・寄託資料

申込種別	所蔵者	内 容	点 数	区分
寄贈 新規	守屋たつ子	守屋栄夫関係史料	一括	歴史
寄贈 新規	久松 博子	久松潜一旧蔵書	129点 150冊	国文
寄託 追加	坂田 穂好	古筆切	5点	国文
寄託 新規	木藤 才蔵	連歌資料	48点	国文

- ③ 源氏物語に関する資料を、近世以前の原本から近現代の口語訳やアニメーションに至るまで幅広く収集し、将来「源氏文庫」として公開する計画をたて、今年度は原本4点を購入し、合計16点となった。

資料3 源氏文庫購入資料

書 名	数量
源氏物語画帖	1帖
紫式部肖像	1軸
賦光源氏物語詩	1冊
河内本源氏物語零葉薄雲巻断簡	1軸

【図書資料の受入・整理】

(1) 概 要

移転作業を優先したため、平年に比べ整理点数が減少した。

マイクロ資料の目録作成に関しては、平成22年度までに滞貨を解消する計画に基づき、毎年、2年分の収集点数にあたる約7,000件のデータ作成・点検および入力を行い、遅滞解消に努めているが、今年度は、移転作業等の影響により、約4,500件のデータ増となった。

また、普及・連携活動事業部による日本古典籍講習会で、古典籍の整理方法について、当館データベースを利用した目録作成の普及を図っている。

(2) 活動記録

以下の活動を行った。

① 貴重書・特別コレクションの指定

新たに貴重書8点、特別コレクション1件を指定した。

資料4 新指定貴重書・特別コレクション

項 目	請求記号・ 文庫番号	書名・コレクション名	備 考
貴重書	99-121	源氏物語団扇画帖	江戸前期写 手鑑1帖
	99-122	源氏物語歌合絵巻	室町後期写 卷子本1軸
	99-123	源氏物語系図	鎌倉時代後期写か 卷子本1軸
	99-124	雛本八種	赤豆本 刊本8冊
	99-125	雨月物語	刊本 合2冊
	99-126	狂文宝合之記	刊本 3巻3冊
	99-127	画本虫撰	狂歌絵本 天明8年刊 2冊
	99-128	巷間芸能絵尽	巷間芸能22種の絵を張り込んだ画帖 1帖
特別コレクション	11	久松潜一旧蔵書	中世歌論書を中心としたコレクション。129点 150冊。

② 資料の整理・目録作成

a. マイクロ資料目録作成

- ・書誌データ作成 約 5,400 件
- ・書誌データ登録 約 4,500 件
- ・データベース移植時の未コントロール分処理 約 1,000 件
- ・その他（文献資料収集調査事業との調整等）

資料5 マイクロ資料目録データベース登録一覧

文庫番号	所蔵者・文庫名	サービス区分	リール番号	件数
11	京都大学文学部（頼原文庫）	B	216-229	113
49	岩国徴古館	B	397-425	277
55	陽明文庫	E	紙焼写真	6
238	法政大学能楽研究所（鴻山文庫）	D	216-226	395
278	大須文庫	B'	87-118	188
296	尊経閣文庫	E	紙焼写真	12
321	鎌田共済会郷土博物館	B	138-150	91
326	名古屋市博物館	B	86-109	86
332	ノートルダム清心女子大学附属図書館	D	246-281	74
339	篠山市教育委員会（青山歴史村）	A	119-137	718
346	百々御所文庫	E	71-82	68
355	諏訪市図書館	A	65-99	311
357	東京大学文学部宗教学研究室	A	150-154	105
358	肥前松平文庫	A'	115-170	295
359	大阪天満宮御文庫	A'	14-36	69
363	鳥取県立図書館	A	80-115	304
364	大洲市立図書館	A'	40-64	99
366	長崎大学附属図書館経済学部分館	A	12-29	198
370	奈良女子大学附属図書館	B	1-20	118
ハ3	初瀬川文庫	A	72-124	638
ハ5	濱口博章	A'	2-9	322
マ6	益田家	A	180-203	37
ミ2	光藤益子	A	40-49	18
	合計			4542

b. 和古書・明治期資料の整理

- ・和古書の整理 169 点
- ・明治期資料の整理 436 冊
- ・和古書目録書誌データ作成（登録） 395 件
- ・明治期資料の遡及入力 882 冊

c. 活字本・影印本の整理

- ・活字本・影印本の目録作成 2,111 冊
- （新館の配架場所変更を含む NC 登録件数は 32,365 冊）

d. アーカイブズ関係図書等の整理

・図書目録作成

350 冊

【資料の保存】

(1) 概 要

原形を尊重した保存・修復措置を継続的に行っている。

(2) 活動記録

① 文書・記録類の保存・修復処置

- a. 本格的保存措置（閲覧用識別ラベル貼付、中性紙封筒・帙等への収納と状態調査記録作成、部分的修復処置）……1,641 点

（「信濃国水内郡軍五荷村水野家文書」等）

- b. 簡易的保存措置（保存容器への収納）……段ボール約 3,630 箱

昨年度に続き立川移転準備として、史料の状態確認・汚れの除去後、段ボール箱に収納するという方法で効率的に作業を行った。次年度は移転用段ボール箱から中性紙保存箱への入替作業を継続的に行う。

- c. 部分的修復処置（部分裏打ちと紙継剥離貼り合わせ）……1,667 点

『史料目録第 87 集（信濃国松代真田家文書目録（その 8））』の刊行に伴い、収載史料（絵図）の利用促進を円滑にするため、撮影を行う前に状態調査記録を作成し処置をほどこした。

② 古典籍原本の保存・修復処置

- a. 新収資料の燻蒸

二酸化炭素、無酸素による燻蒸を夏期に実施し、残りを移転期間中に無酸素で実施した。

- b. 補修

虫損が著しく閲覧が困難な高乗勲文庫の『徒然草』（刊 2 冊）、『平家物語竟宴和歌』（刊 1 冊）、『本朝書籍目録他』（写 1 冊）、『莊子抄』（刊 3 冊）、『西行上人談抄』（写 1 冊）、懷風弄月文庫の『新古今和歌集』（写 2 冊）の補修を専門家に依頼した。

【利用者サービス】

(1) 概 要

① 立川市への移転と開館準備

- ・平成 20 年 2 月の立川市への移転のため、来館利用は平成 19 年 10 月から、郵送または図書館相互協力による利用は 11 月から、共に 3 月まで、サービスを休止した。
- ・利用者には多大な不便をかけたが、その間、無断持出防止装置用の磁気テープ装着、開架スペース増加のための資料選定、ラベル類貼付、目録データ変更などの作業を行うことができた。
- ・資料移転は、1 年前から準備を行っていた史料を除いては、12 月から順次棚指定、1 月から 2 月にかけて梱包運搬、新書架への配架、調整を行なった。この結果、閲覧室の開架図書は、3 万 8 千冊から 12 万 6 千冊に増加し、紙焼写真本は所蔵者の意向により複写できないものを除き全てが開架された。一方、資料出納の作業動線は長くなった。

② 土曜開館に向けての準備

- ・平成 20 年 7 月から図書館の土曜開館を実施するための準備をおこなった。

③ レファレンス総合窓口システムの運用

平成 19 年度から、レファレンス総合窓口システムの運用を電子情報事業部から引き継いでおこな

った。レファレンス総合窓口システムは、国文学・歴史資料、あるいは当館データベースに関する質問・問い合わせをホームページの専用入力フォームから入力するもので、利用動向の分析ができる。

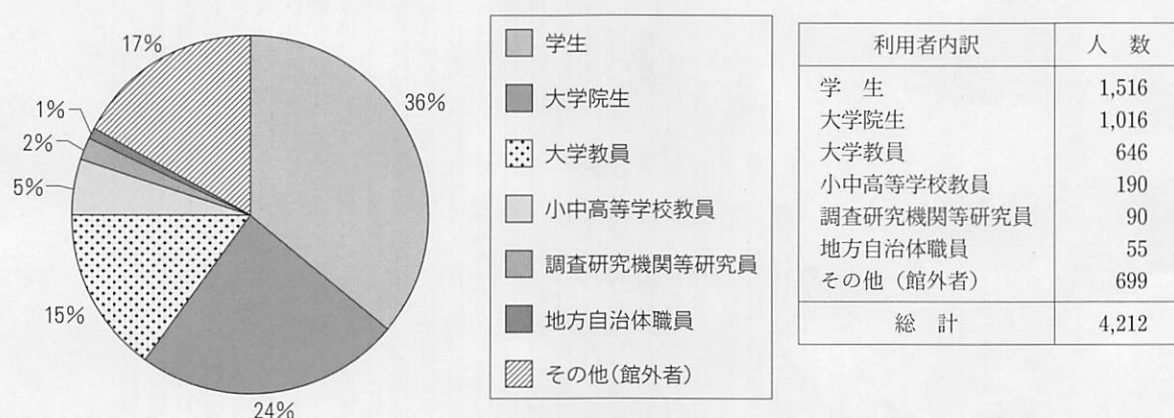
(2) 活動記録

来館利用件数は休止のために縮小したが、相互協力依頼による文献複写、特にマイクロ資料の電子複写枚数が大きく伸びた（相互協力件数推移）。相互協力は、休止期間が長かったにもかかわらず、国立情報学研究所の1月までの文献複写受付数順位は、ILL 参加機関約 1,000 機関中 73 位と健闘している。

① 資料の閲覧及び複写

開館日数は 116 日、登録者は 980 人、来館利用者数は 4,212 人であった。

資料 6 来館利用者の構成



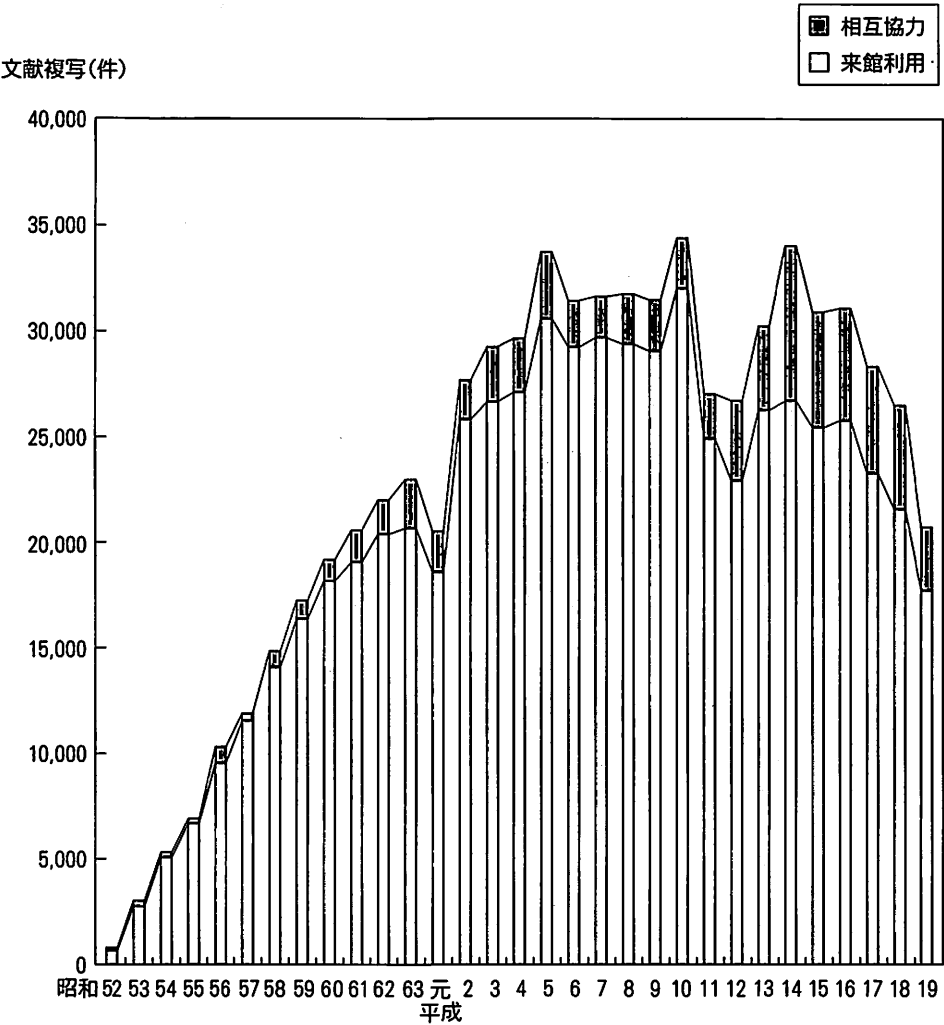
資料 7 資料出納点数

項 目	数 量 (点)		
	日本文学	歴 史	合 計
図 書	3,673	124	3,797
逐次刊行物	4,681	25	4,706
ポジフィルム	2,574	—	2,574
紙焼写真本	1,761	643	2,404
史 料	—	16,857	16,857
紙焼写真本一夜貸し	36	—	36

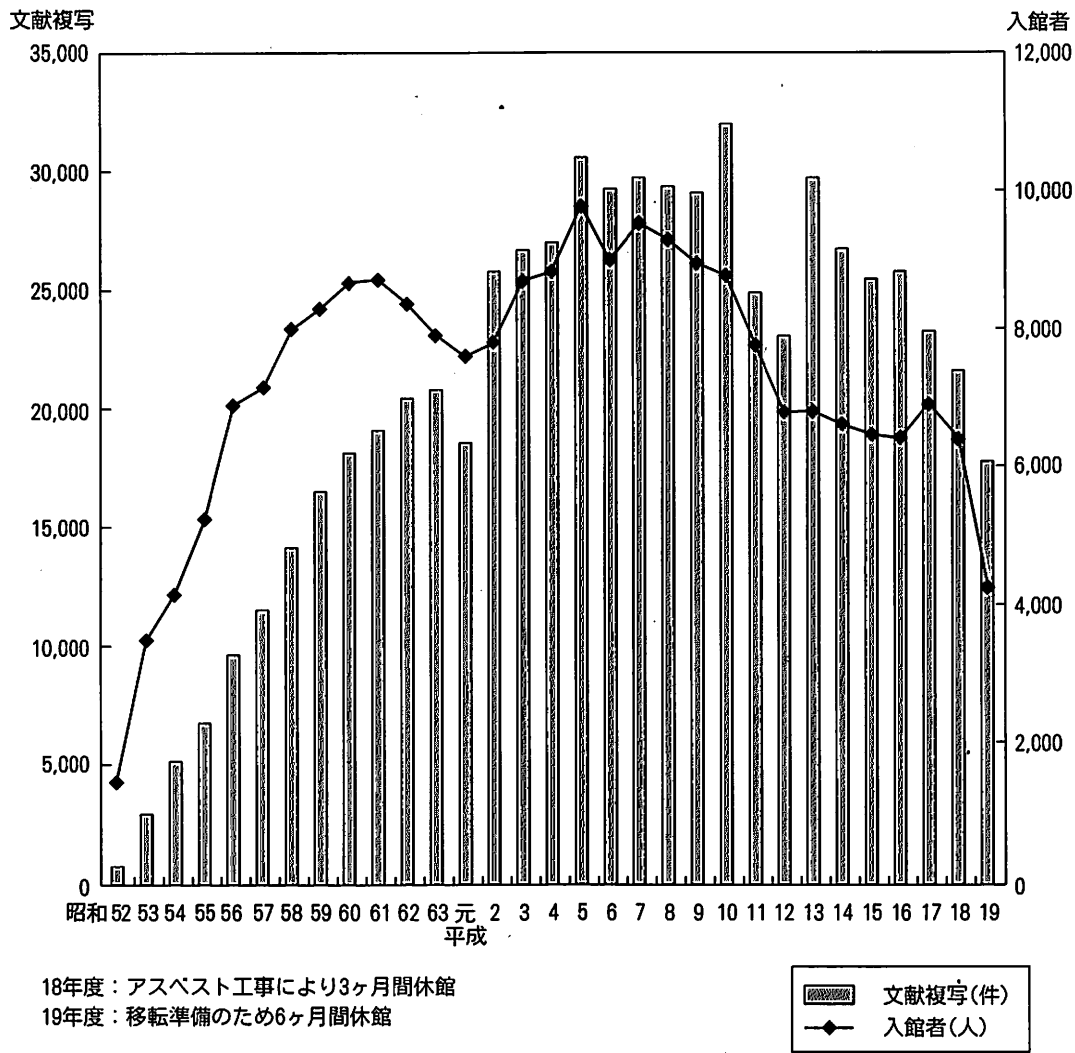
資料 8 文献複写

項 目	数 量		料 金
	件	枚 (コマ)	
電子複写	8,528	65,349	1,825,870
(内セルフコピー)	7,137	55,330	554,170
RP による電子複写	1,837	60,752	2,371,370
紙焼作製	55	2,241	225,260
フィルム複製	68	86	89,250

参考資料 文献複写件数推移



参考資料 来館利用状況の推移



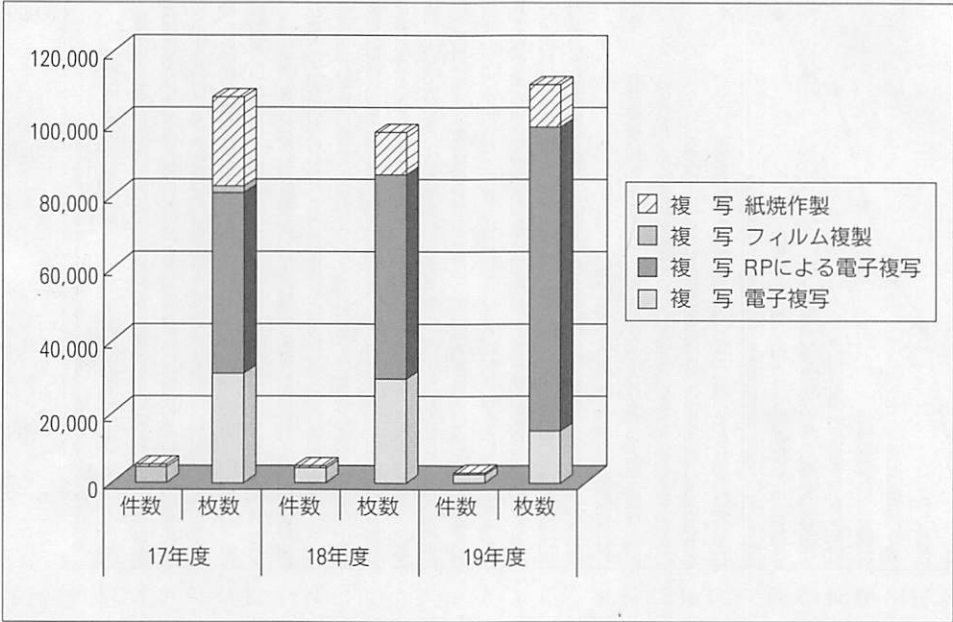
② 相互協力サービス

資料9 相互協力件数

項 目		受 付		依 頼
貸借	図書	9 件、9 点、9 冊		36 件 36 点
	紙焼写真本	4 件、5 点、6 冊		
複写	電子複写	2,031 件	14,915 枚	29 件
	RP による電子複写	770 件	83,562 枚	64 件
	フィルム複製	9 件	429 コマ	0 件
	紙焼作製	142 件	11,817 枚	30 件

参考資料相互協力件数の推移

項 目		17 年度		18 年度		19 年度	
項 目		件 数	枚 数	件 数	枚 数	件 数	枚 数
複 写	電子複写	4,252	30,484	4,093	29,059	2,031	14,915
	RP による電子複写	619	49,809	631	55,792	770	83,562
	フィルム複製	12	2,065	4	593	9	429
	紙焼作製	154	24,354	220	11,782	142	11,817
合 計		5,037	106,712	4,948	97,226	2,952	110,723



③ レファレンスサービス

資料 10 レファレンスサービス件数

質問の種類		件 数
文書による質問		13
メールによる質問	総合窓口システムへの質問	101
	問い合わせメール	81
電話による質問	所蔵調査	722
	利用についての問い合わせ	1,042
口頭による質問		278

参考資料 レファレンス総合窓口システム統計・質問一覧

職 業	教 員	大学院生	大学・短大・高専	高校生	中学生以下	その他一般	合 計
	26	7	4	2	0	65	104

種 別	参 考	利用案内	所蔵案内	HP 上の障 害	HP 上の操 作	その他	合 計
	31	24	10	3	1	32	101

回答法	カウンター	電 話	Web	e-mail	Fax	書 面	その他	合 計
	2	1	87	8	1	0	2	101

④ 掲載許可申請受付

今年度移転のため10月までで受付を終了した。今年度決裁分は以下のとおり。

- ・翻刻掲載 20 件
- ・写真掲載 104 件

⑤ 資料の展示貸付（展示開始が今年度のもの） 3 件

資料 11 展示貸付一覧

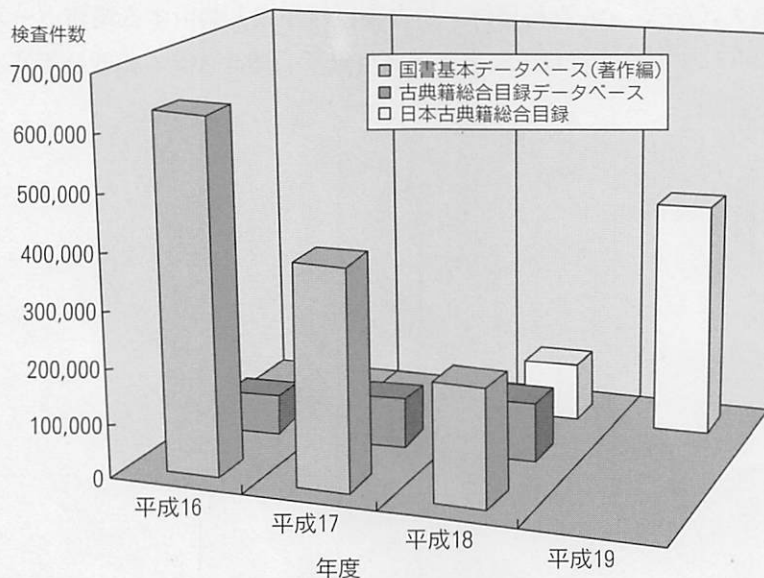
貸出機関	展示内容	展示期間	貸出資料	点数
富士市立博物館	村絵図を歩く	平成 19 年 4 月	正徳元卯年一二月焼失岩本村上組下組屋敷絵図（駿河国富士郡岩本村文書ならびに富士川交通史料写のうち）ほか	7
松戸市立博物館	大名の旅一本陣と街道一	平成 19 年 10 月～11 月	御本陣御用留帳（下総國相馬郡藤代村飯田家文書のうち）ほか	4
昭和女子大学光葉博物館	渋沢敬三の夢・日本実業史博物館の資料『広告』	平成 19 年 10 月～11 月	精錡水（日本実業史博物館準備室旧蔵資料のうち）ほか	82

【古典籍総合目録事業】

（1）概 要

『国書総目録』（岩波書店刊）を継承発展させるものとして、古典籍総合目録作成事業を行っている。その成果として『古典籍総合目録』（当館編・岩波書店刊）を刊行し、他方、データベースを公開している。平成 18 年末に従来の「国書基本データベース（著作編）」「古典籍総合目録データベース」を統合し、マイクロ資料目録データも含めた「日本古典籍総合目録」データベースを公開し、古典籍の書誌・所在情報を、著作及び著者の典拠情報とともに広く提供している。

参考資料 古典籍総合目録データベース利用件数推移



*「国書基本データベース（著作編）」「古典籍総合目録データベース」は平成 18 年 12 月 27 日で停止。
「日本古典籍総合目録」を同日より公開。

(2) 活動記録

下記のとおりデータ作成等を実施した。

- ① データソース収集、所蔵者との連絡（書誌情報の古典籍総合目録データベース収載公開についての依頼等）
- ② 書誌データ作成（登録） 約 5,000 件

資料 12 古典籍総合目録データ作成 所蔵者・目録一覧

	所蔵者	コレクション		データ件数
1	宮城県図書館	小西文庫	宮城県図書館蔵 小西文庫和漢書目録（昭和 58 年刊 特殊文庫目録 第 1 冊）	587 （入力中）
2	〃		宮城県図書館和古書目録（平成 3 年刊）	1,840 （入力中）
3	東京都公文書館		東京都公文書館和書データ（＊）	1,358
4	山梨県立博物館	甲州文庫	山梨県立図書館所蔵甲州文庫目録（昭和 39・46 年刊）	583 （入力中）
5	カリフォルニア大学 バークレー校図書館	三井文庫旧蔵 資料	カリフォルニア大学バークレー校所蔵三井文庫 旧蔵江戸版本書目（1990）	195 （4,670 中）
6	パリ東洋語図書館		パリ東洋語図書館蔵日本書籍目録 1912 年以前 （平成 18 年刊）	738
	合 計			5,301

* 電子データ

- ③ 基礎データ（典拠データ）追加・改訂
- ④ 「マイクロ/デジタル資料・和古書所蔵目録」の公開（平成 19 年 8 月 2 日）
- ⑤ 公開データベースの更新
 - 「日本古典籍総合目録」（平成 19 年 7 月）（平成 20 年 3 月）
 - 「マイクロ/デジタル資料・和古書所蔵目録」（平成 20 年 3 月）
- ⑥ その他（マイクロ/デジタル資料目録・和古書目録作成と共用する業務データベースシステムの改修・「マイクロ/デジタル資料・和古書所蔵目録」公開システムの改修等）